

## 調査の概要

### 1. 調査概要

#### (1) 調査目的

小・中学校に通う子どもをもつ保護者の学校教育や教育改革に対する意識、家庭での教育や生活の様子を明らかにする。

#### (2) 調査方法

##### ア. 調査対象及び対象校数

###### 調査対象

全国の公立小・中学校通う子ども（小学1年生～中学3年生）をもつ保護者。

###### 対象校数

小学校 15 校、中学校 10 校。

##### イ. 調査対象校の抽出方法

全国の公立小中学校のリストより無作為抽出を行った。

#### 【地域ブロックごとの内訳】

	小学校	中学校	地域区分：
北海道	0	0	北海道
東北	3	0	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	4	2	埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、茨城県、栃木県、群馬県
中部	2	4	新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	2	3	滋賀県、奈良県、和歌山県、京都府、大阪府、兵庫県
中国	0	0	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	1	0	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	3	1	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
計	15	10	

##### ウ. 調査対象

調査対象校のすべての保護者を対象とした（学校の都合により、一部の学年・クラスのみで実施したケースを含む）。

## エ．調査の実施方法

学校通しによる家庭での自記式質問紙調査（児童生徒に持ち帰ってもらい、保護者が記入した調査票を、児童生徒を通して回収）。

## オ．調査時期

2005年3月。

## (3)調査項目

調査項目の構成は、以下の通りである。

### 学校とのかかわりについて

- ・学校や先生とのかかわり
- ・子どもが通う学校に望むこと

### 学校教育に対する評価と意見について

- ・学校教育で身につける必要性が高い能力・態度
- ・学校外の教育で身につける必要性が高い能力・態度
- ・学校の満足度や取り組みへの評価
- ・「総合的な学習の時間」の取り組みについての評価

### 教育改革に対する意見について

- ・授業や学習指導の改革に対する意見
- ・教育制度の改革に対する意見
- ・学校評価や人事の改革に対する意見

### 家庭教育や生活の様子について

- ・子どもとのかかわりのなかでしていること

## 2．回収結果

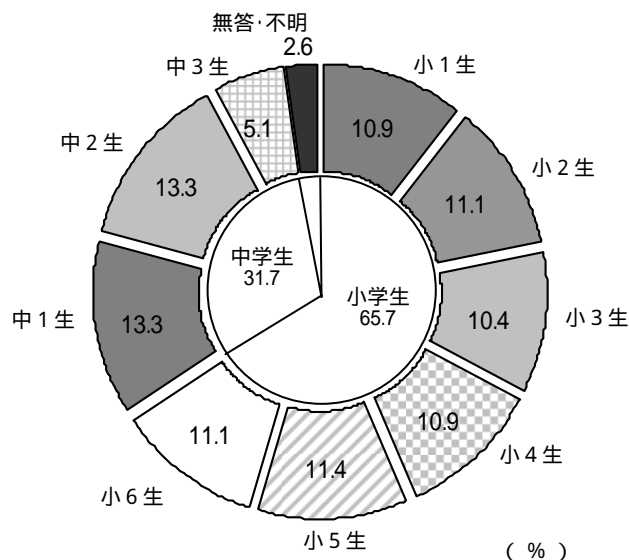
学校に配布を依頼した通数の合計は、9,836通であった。

調査票の有効回収数は、6,742通（回収率68.5%）であった。

### 3 . 回答者の特性

#### (1)学校段階・学年

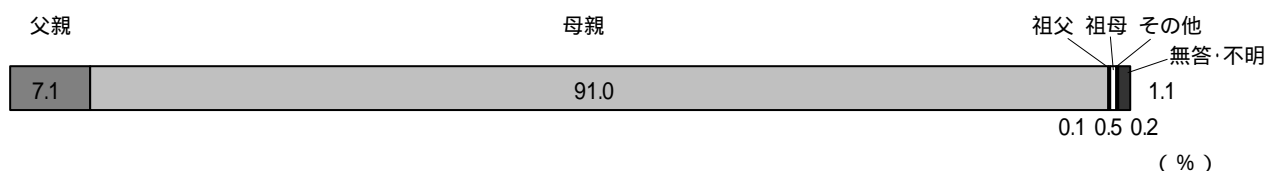
回答者の子どもが通う学校段階は、「小学生」が65.7%、「中学生」が31.7%、「無答・不明」が2.6%であった。子どもの学年による内訳は、「小学1年生」が10.9%、「小学2年生」が11.1%、「小学3年生」が10.4%、「小学4年生」が10.9%、「小学5年生」が11.4%、「小学6年生」が11.1%、「中学1年生」が13.3%、「中学2年生」が13.3%、「中学3年生」が5.1%、「無答・不明」が2.6%であった。「中学3年生」の保護者の比率が低いのは、調査実施時期が卒業式の時期と重なったために、配布数が少なかったためである。



以下では、小学4年生を「小4生」、中学1年生を「中1生」のように表記する。

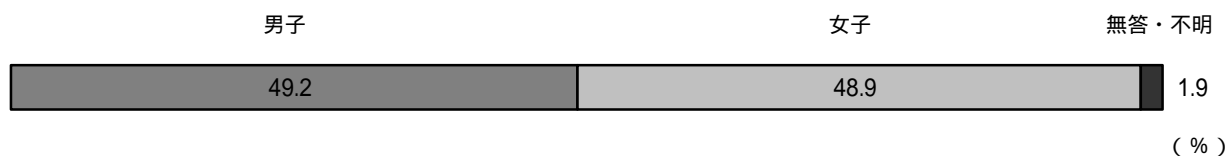
#### (2)続柄

回答者の続柄は、「母親」が91.0%、「父親」が7.1%、「祖父」が0.1%、「祖母」が0.5%、「その他」が0.2%、「無答・不明」が1.1%であった。



#### (3)子どもの性別

回答者の子どもの性別は、「男子」が49.2%、「女子」が48.9%、「無答・不明」が1.9%と、男女がほぼ同じ比率であった。



# 1章 学校とのかかわり

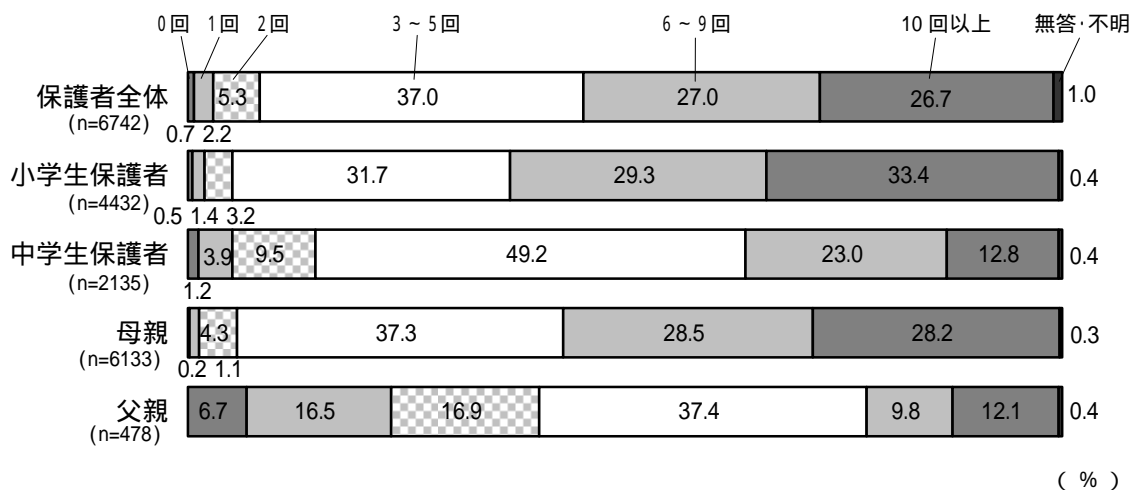
## 1. 学校や先生とのかかわり

### (1) 学校に行った回数

最初に、この1年間で子どもが通っている学校に行った回数を聞いた(図1-1-1)。全体で見ると、「3～5回」(37.0%)と答えた割合がもっとも高く、つづいて「6～9回」(27.0%)、「10回以上」(26.7%)が多くなっている。一方で、「0回」「1回」「2回」という回答は、合計しても8.2%で1割に満たない。

次に、学校段階別、父母別に見てみると、「3～5回」と答えた割合がもっとも高いという傾向は変わらないが、「0回」「1回」「2回」「3～5回」という少ない頻度を答えた割合が、小学生保護者よりも中学生保護者で、母親よりも父親で高くなっている。一方、「6～9回」「10回以上」という多い頻度を答えた割合は、中学生保護者よりも小学生保護者で、父親よりも母親で、高くなっている。

図1-1-1 学校に行った回数(学校段階別・父母別)



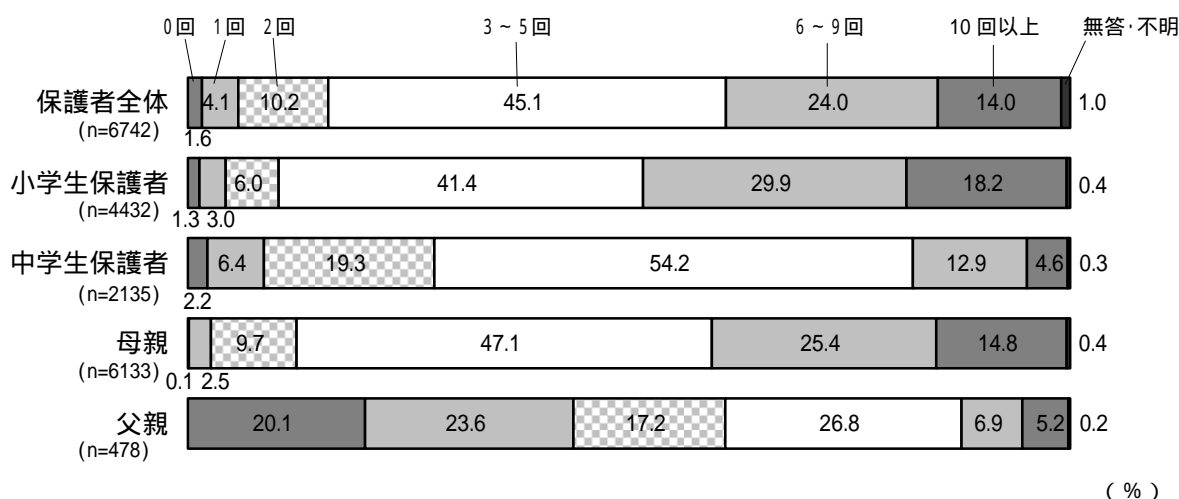
## (2)子どもの担任に会った回数

つづいて、この1年間で子どもの担任に会った回数を聞いた(図1-1-2)。まず、全体で見ると、「3～5回」(45.1%)と答えた割合がもっとも高く、「6～9回」(24.0%)、「10回以上」(14.0%)が多くなっている。

次に、学校段階別に見てみると、「3～5回」と答えた割合がもっとも高いという傾向は変わらないが、「0回」「1回」「2回」「3～5回」という少ない頻度を回答する者が、小学生保護者よりも中学生保護者で多くなっている。その一方、「6～9回」「10回以上」という多い頻度を答えた割合は、中学生保護者よりも小学生保護者で高くなっている。

また、父母別に見てみると、こちらも「3～5回」と答えた割合がもっとも高いという傾向は変わらない。しかし、「0回」「1回」「2回」と答えた割合は母親よりも父親で高くなっている一方、「3～5回」「6～9回」「10回以上」という多い頻度の回答の割合は、父親よりも母親で高くなっている。

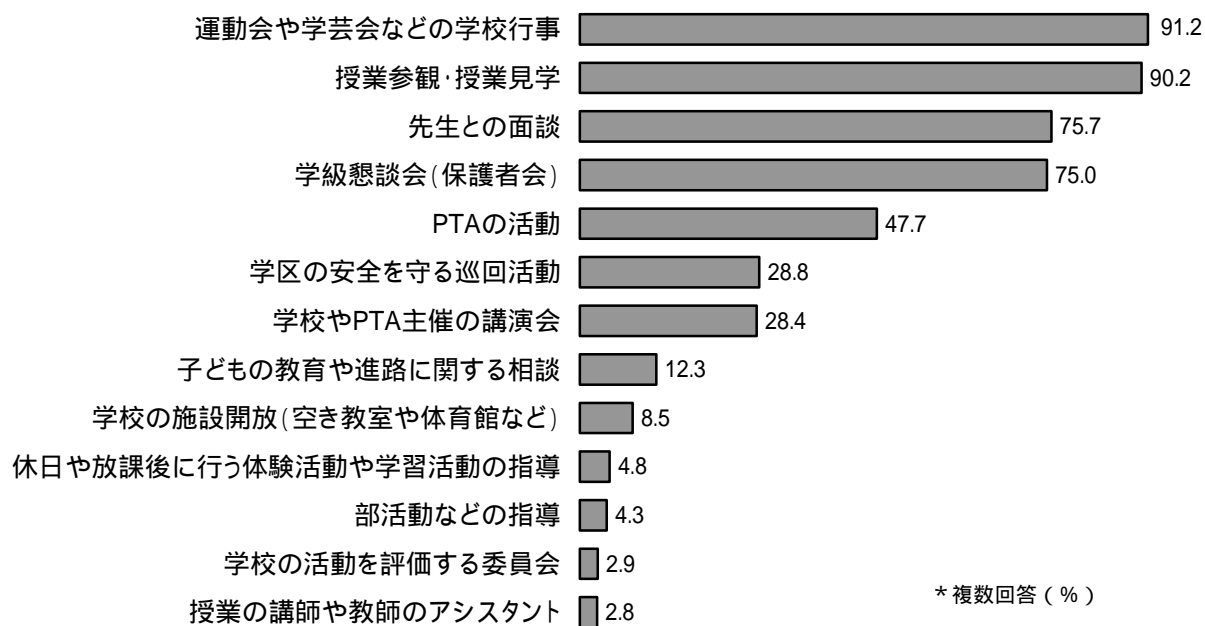
図1-1-2 子どもの担任に会った回数(学校段階別・父母別)



### (3)出席・参加したことがある行事や活動

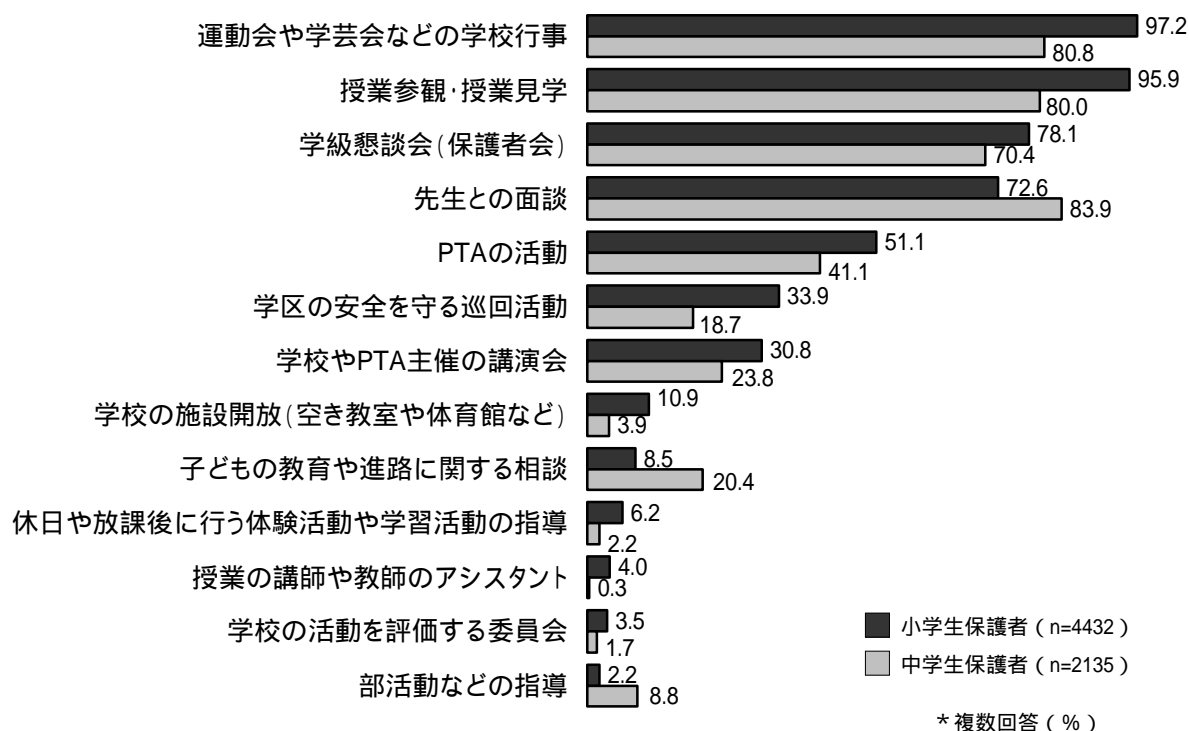
今までに出席したり参加したりした行事や活動について複数回答形式でたずねた結果が、**図1 - 1 - 3**である。「運動会や学芸会などの学校行事」(91.2%)、「授業参観・授業見学」(90.2%)と答えた割合がとくに高くなっている。つづいて、「先生との面談」(75.7%)、「学級懇談会(保護者会)」(75.0%)の回答が多く、それ以外の項目については、5割未満となっている。

**図1 - 1 - 3 出席・参加したことがある行事や活動**



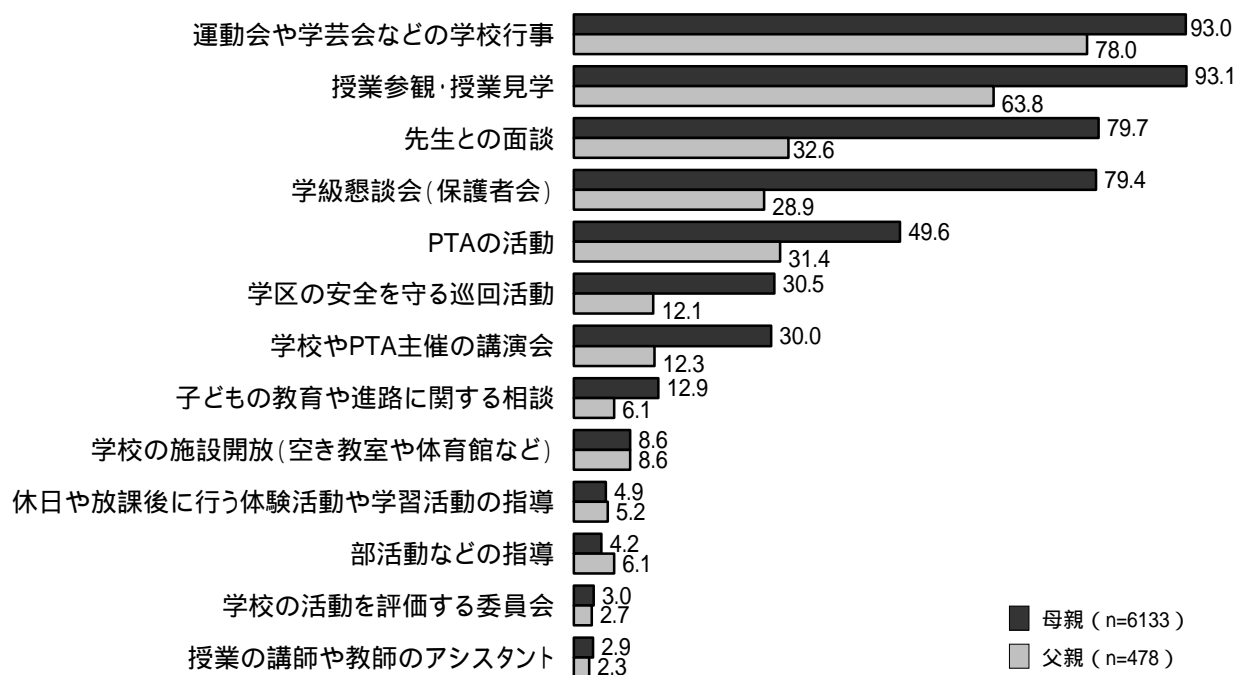
今までに出席したり参加したりした行事や活動について、学校段階別に比較したものが、**図1-1-4**である。小学生保護者より中学生保護者が答えた割合が高いのは、「先生との面談」(小学生保護者72.6% < 中学生保護者83.9%、以下同様)、「子どもの教育や進路に関する相談」(8.5% < 20.4%)、「部活動などの指導」(2.2% < 8.8%)の3項目だけである。それ以外の項目については、小学生の保護者のほうが中学生保護者より選択した比率が高くなっている。

**図1-1-4 出席・参加したことがある行事や活動(学校段階別)**



今までに出席したり参加したりした行事や活動について、父母別に比較したものが、**図1-1-5**である。総じて、父親よりも母親の出席率・参加率が高い。とくに、「先生との面談」(母親79.7%>父親32.6%、以下同様)、「学級懇談会(保護者会)」(79.4%>28.9%)、「学区の安全を守る巡回活動」(30.5%>12.1%)、「学校やPTA主催の講演会」(30.0%>12.3%)、「子どもの教育や進路に関する相談」(12.9%>6.1%)では、母親の回答の比率が父親の倍以上となっている。母親より父親が答えた割合が高いのは、「休日や放課後に行う体験活動や学習活動の指導」(4.9%<5.2%)、「部活動などの指導」(4.2%<6.1%)のわずか2項目だけである。

**図1-1-5 出席・参加したことがある行事や活動(父母別)**



\* 複数回答 (%)



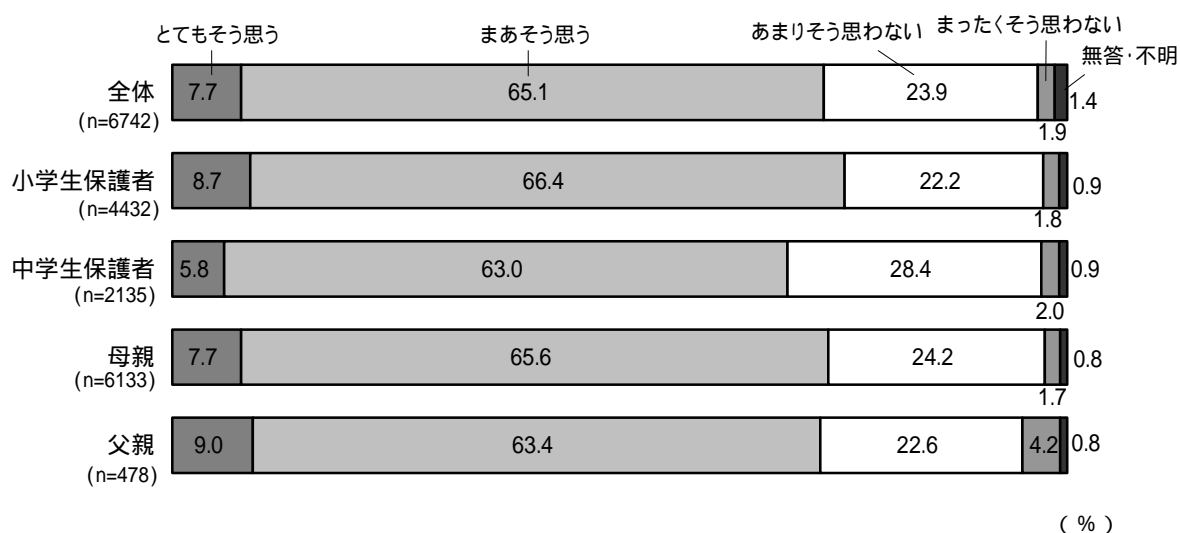
## (4)学校の活動参加や先生への協力の気持ち

もっと学校の活動に参加したり、先生に協力したりしたいと思うかを聞いたところ(図1-1-6)全体としては、「まあそう思う」(65.1%)と答えた割合がもっとも多く、「とてもそう思う」(7.7%)と合わせると72.8%に達した。

これを学校段階別に見てみると、「まあそう思う」と答えた割合がもっとも多いという傾向は変わらないが、小学生保護者と比較して中学生保護者の方が、「とてもそう思う」「まあそう思う」と答えた割合が低くなっている。さらに、父母別に見てみると、母親と比較して父親の方が、「まあそう思う」「あまりそう思わない」と答えた割合が小さく、「とてもそう思う」「まったくそう思わない」という回答の割合が若干大きいことがわかる。

図1-1-6 学校の活動参加や先生への協力の気持ち(学校段階別・父母別)

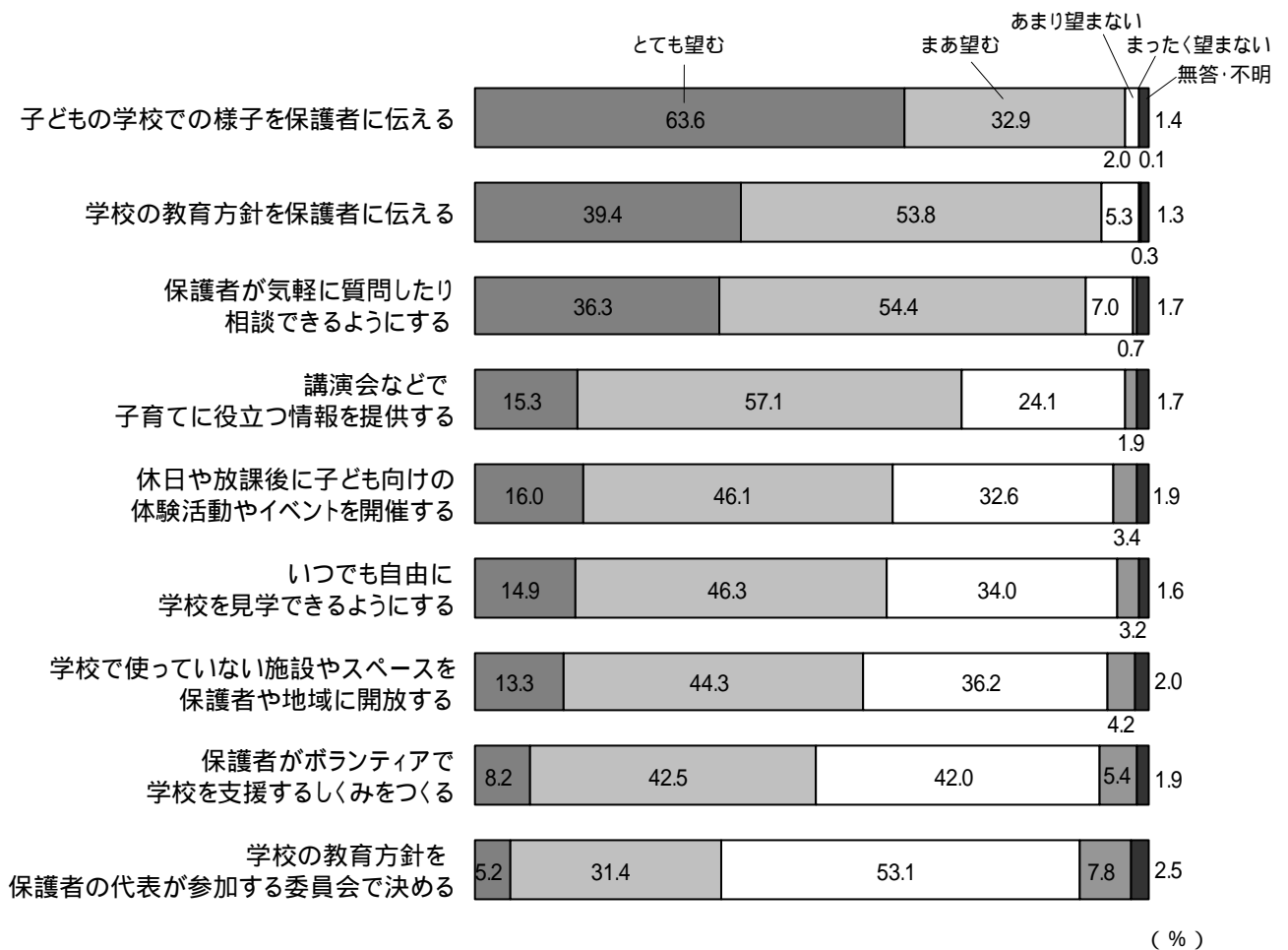
もっと学校の活動に参加したり、先生に協力したいと思いますか。



## 2. 子どもが通う学校に望むこと

子どもが通う学校に望むことを聞いたところ（図1-2-1）、「子どもの学校での様子を保護者に伝える」について「とても望む」と答えた比率が63.6%となっており、他の項目と比較してとくに多かった。また、「学校の教育方針を保護者の代表が参加する委員会で決める」を除くすべての項目で、「望む」（「とても望む」と「まあ望む」の合計）と答えた割合が、5割を超えている。

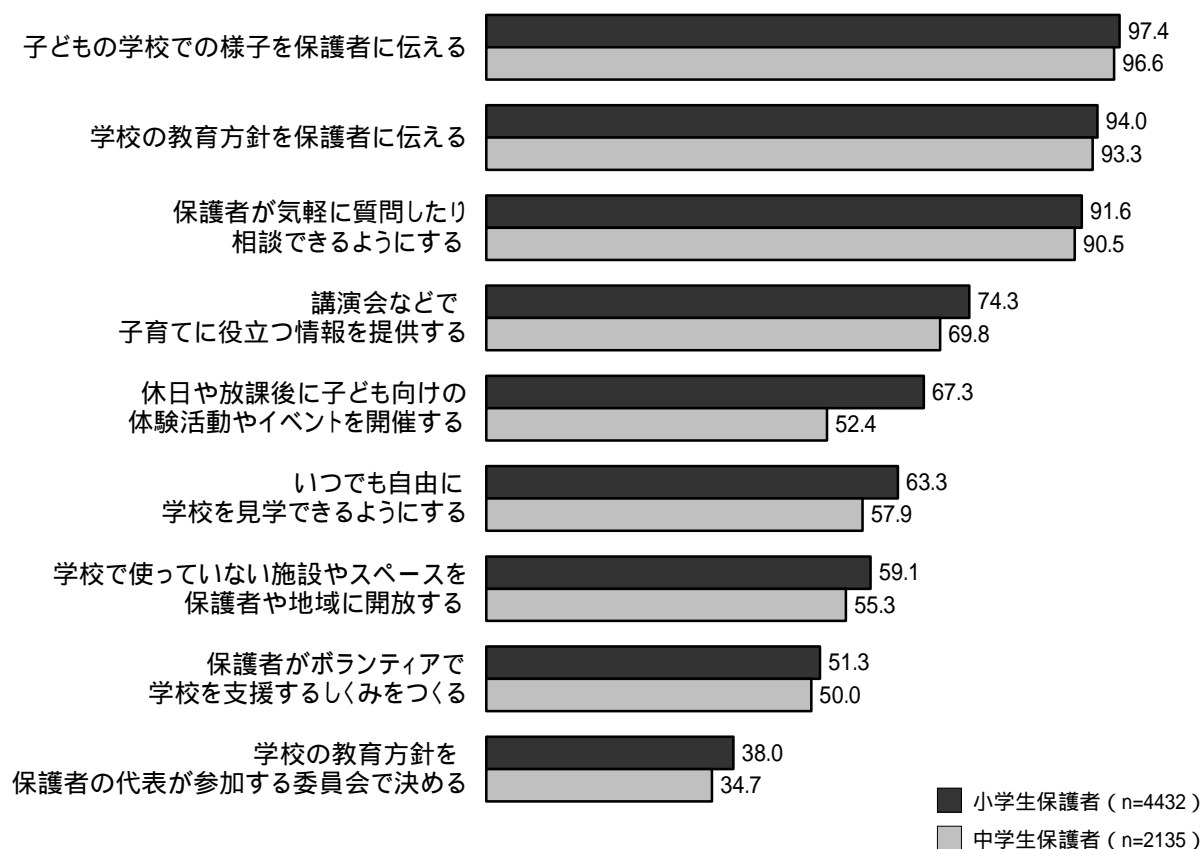
図1-2-1 子どもが通う学校に望むこと



子どもが通う学校に望むことを学校段階別に見たのが、**図1-2-2**である。

「望む」（「とても望む」と「まあ望む」の合計）という回答は、すべての項目で小学生保護者の方が中学生保護者よりも多くなっている。両者の差がもっとも大きいのは、「休日や放課後に子ども向けの体験活動やイベントを開催する」（小学生保護者 67.3% > 中学生保護者 52.4%）である。

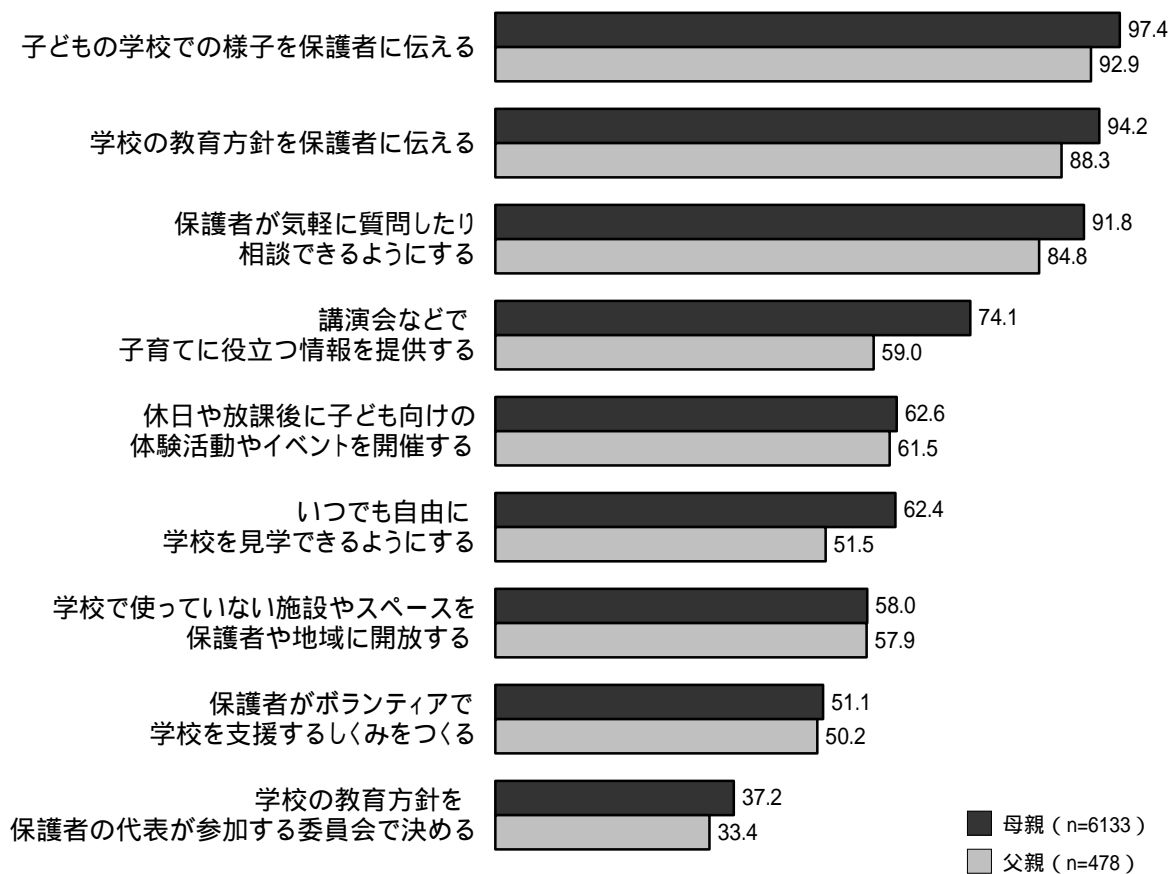
**図1-2-2 子どもが通う学校に望むこと（学校段階別）**



\* 「とても望む」と「まあ望む」の合計 (%)

子どもが通う学校に望むことを父母別に見たものが、**図1-2-3**である。ほぼ同率を示す項目もあるが、すべての項目で父親よりも母親のほうが、「望む」(「とても望む」と「まあ望む」の合計)という回答が多くなっている。とくに、「講演会などで子育てに役立つ情報を提供する」(「とても望む」と「まあ望む」の合計：母親 74.1% > 父親 59.0%、以下同様)、「いつでも自由に学校を見学できるようにする」(62.4% > 51.5%)については、父母の差が10ポイント以上と大きく開いている。

**図1-2-3 子どもが通う学校に望むこと(父母別)**



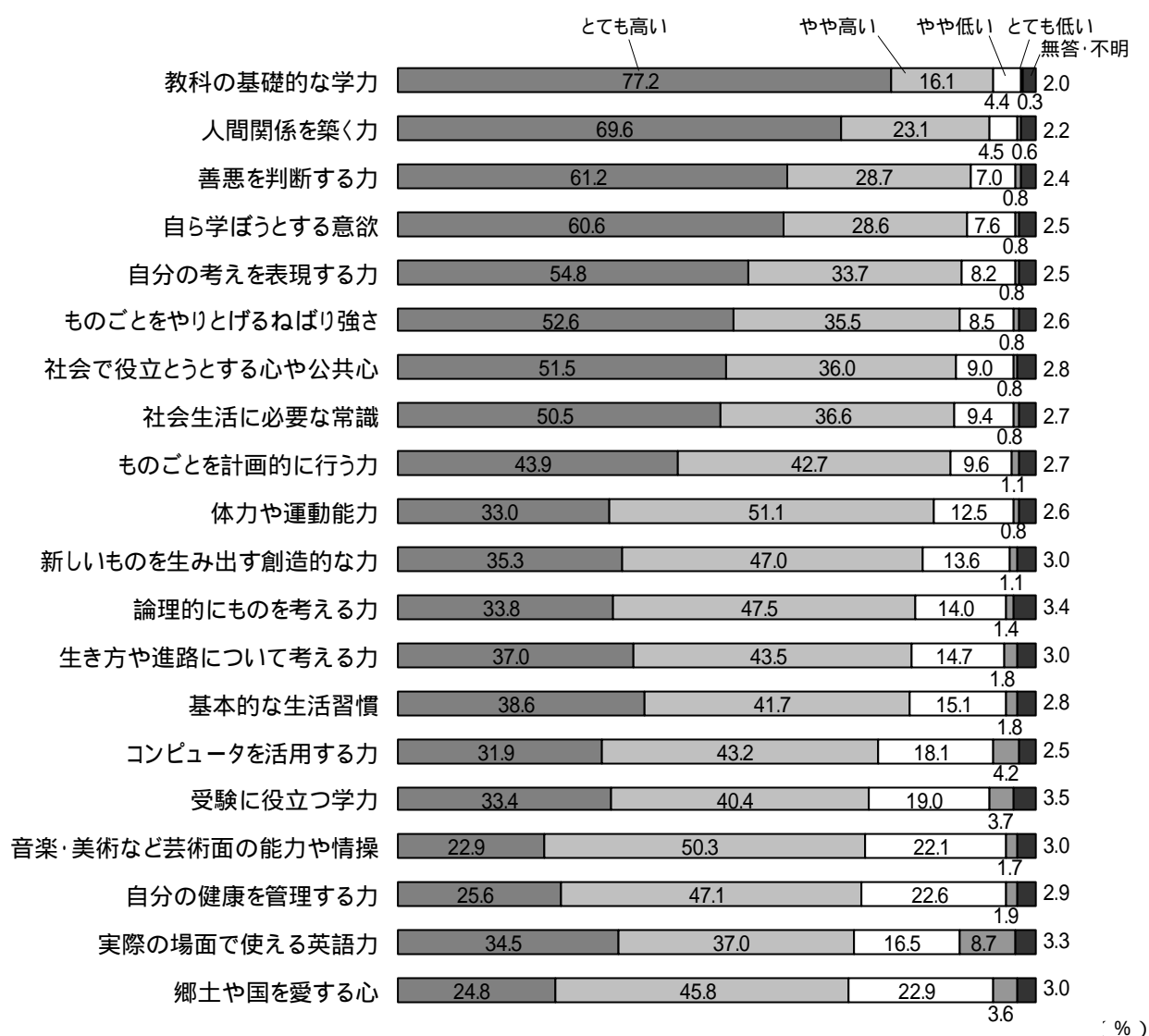
\* 「とても望む」と「まあ望む」の合計 (%)

## 2章 学校教育に対する評価と意見

### 1. 学校教育で身につける必要性が高い能力・態度

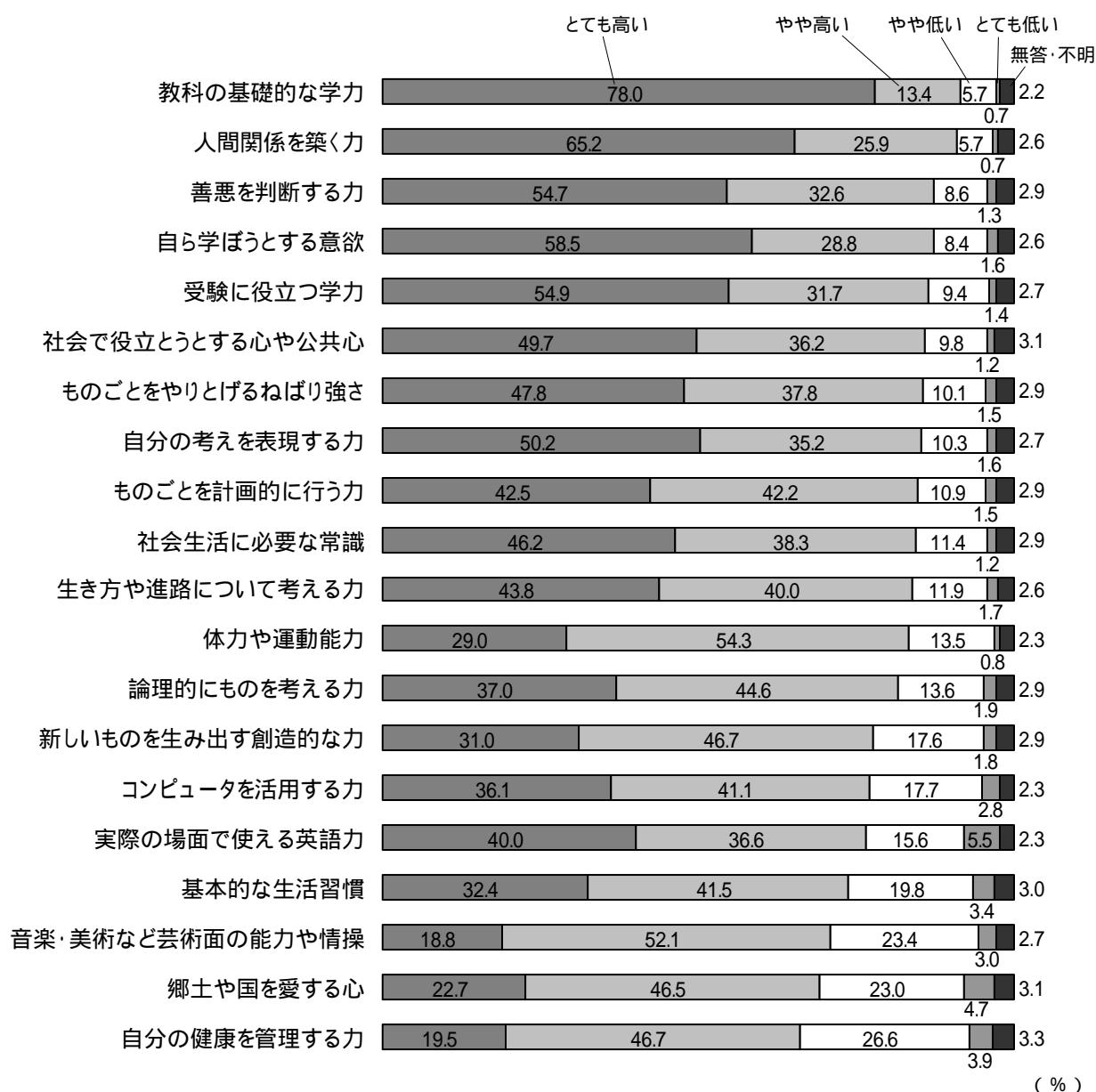
ここでは、20項目にわたる能力や態度について、学校教育のなかで身につける必要性が高いかどうかをたずねた。図2-1-1は、小学生保護者の回答結果である。身につける必要性が「高い」（「とても高い」と「やや高い」の合計）という回答は、すべての項目で7割を超えている。保護者は子どもに対して、さまざまな力を学校で身につけてほしいと期待していることがわかる。とくに必要性が「高い」という回答が多いのは、「教科の基礎的な学力」（93.3%）、「人間関係を築く力」（92.7%）であり、9割を超えている。

図2-1-1 学校教育で身につける必要性が高い能力・態度（小学生保護者）



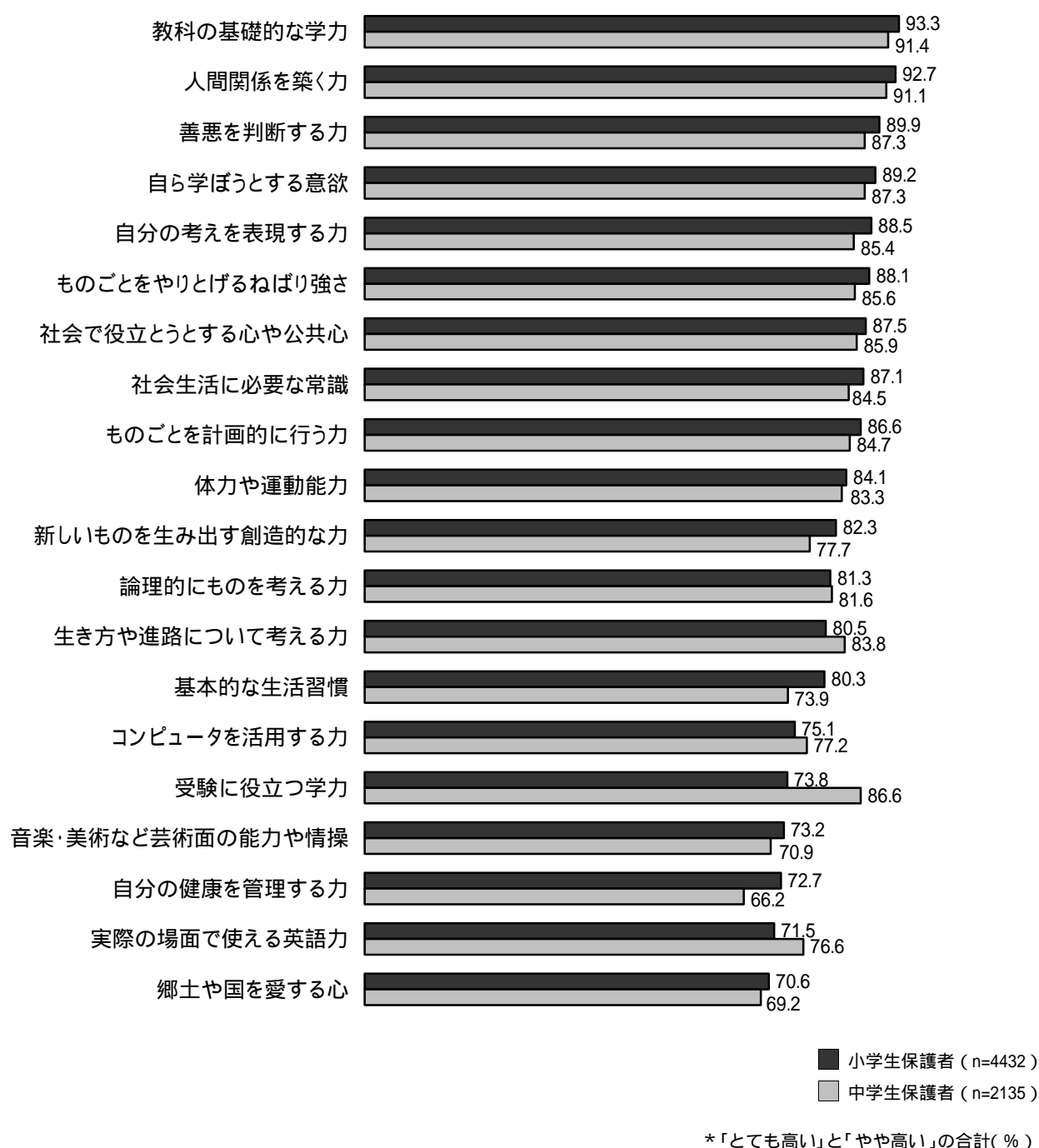
同様に、中学生の保護者に対しても、学校教育のなかで身につける必要がある能力や態度についてたずねた。その結果が、図2-1-2である。「高い」（「とても高い」と「やや高い」の合計）と答えた割合は、すべての項目において6割を超えている。とくに「高い」と答えた割合が多いのは、「教科の基礎的な学力」（91.4%）、「人間関係を築く力」（91.1%）であり、9割を超えている。

図2-1-2 学校教育で身につける必要性が高い能力・態度（中学生保護者）



学校教育のなかで身につける必要性がある能力や態度について、学校段階別に見てみたところ（図2-1-3）、多くの項目で小学生保護者の回答の割合が高かった。中学生保護者の方に「高い」という回答が多かったのは、「受験に役立つ学力」（「とても高い」と「やや高い」の合計：小学生保護者 73.8% < 中学生保護者 86.6%、以下同様）、「実際の場面で使える英語力」（71.5% < 76.6%）、「コンピュータを活用する力」（75.1% < 77.2%）、「生き方や進路について考える力」（80.5% < 83.8%）などであった。このなかでも、「受験に役立つ学力」の差が大きかった。

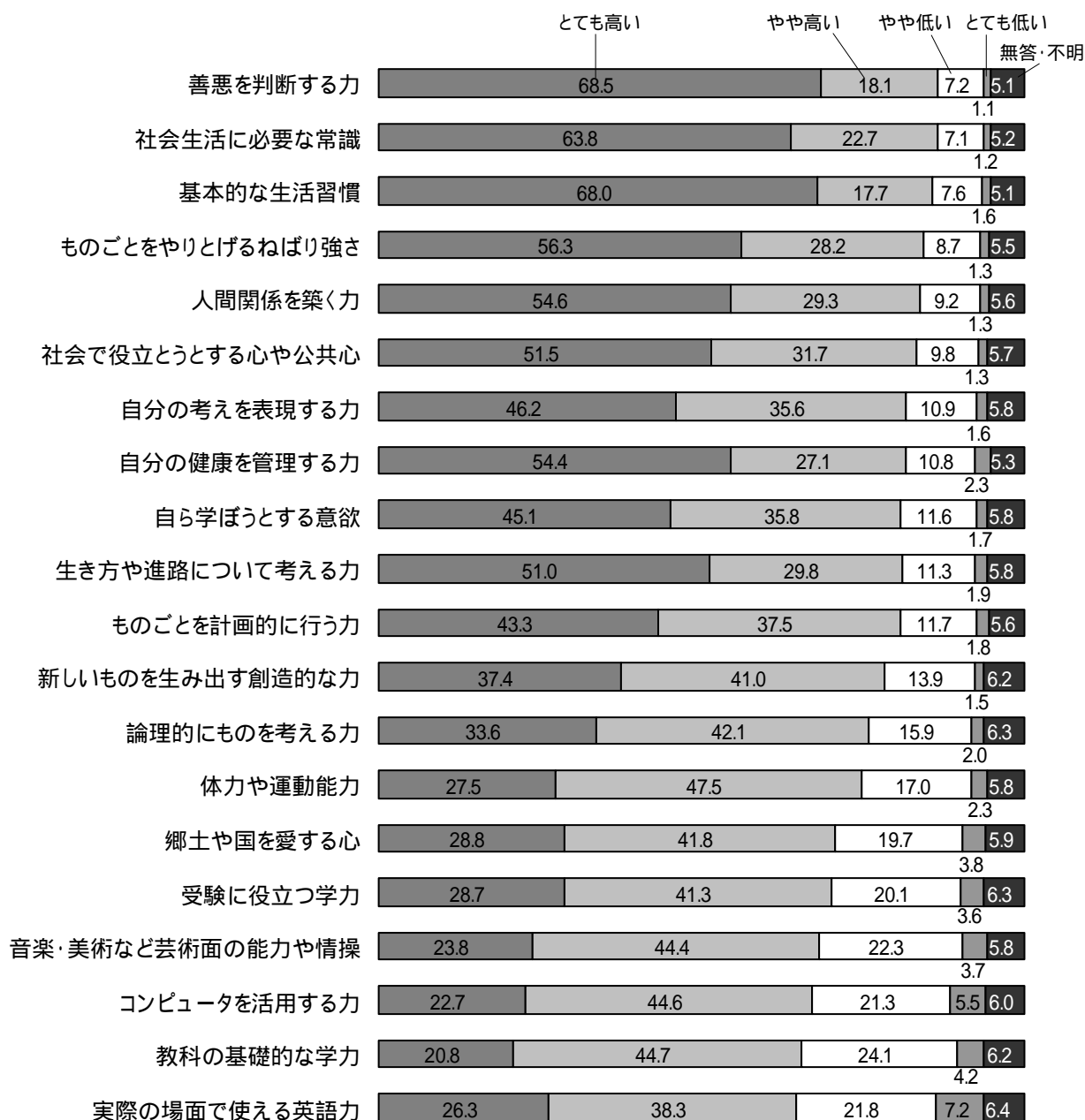
図2-1-3 学校教育で身につける必要性が高い能力・態度（学校段階別）



## 2. 学校外の教育で身につける必要性が高い能力・態度

学校教育と同様の項目で、20の能力や態度について、家庭教育や学校以外の場で身につける必要性が高いかどうかをたずねた。図2-2-1は、小学生保護者の結果である。「高い」「とても高い」と「やや高い」の合計)と答えた割合は、すべての項目について、6割を超えている。とくに「高い」と答えた割合が多いのは、「善悪を判断する力」(86.6%)、「社会生活に必要な常識」(86.5%)、「基本的な生活習慣」(85.7%)であり、85%を超えている。

図2-2-1 学校外の教育で身につける必要性が高い能力・態度(小学生保護者)

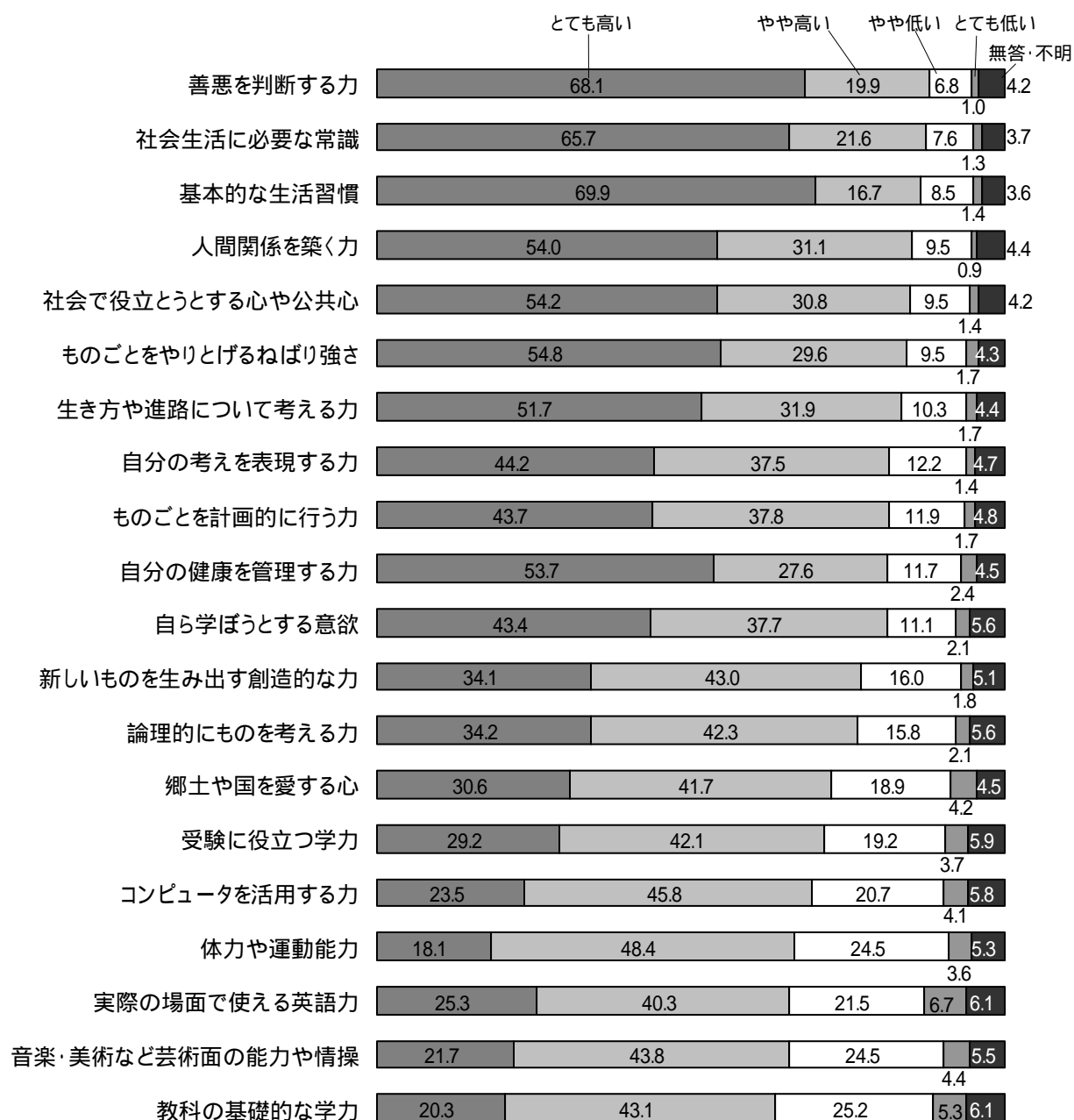


(%)



小学生保護者と同様に、中学生保護者に対して 20 項目にわたる能力や態度を家庭教育や学校以外の場で身につける必要があるかどうかをたずねたところ、**図 2 - 2 - 2**のような結果になった。「高い」（「とても高い」と「やや高い」の合計）と答えた割合は、すべての項目で 6 割を超えている。とくに「高い」と答えた比率が多かったのは、「善悪を判断する力」（88.0%）、「社会生活に必要な常識」（87.3%）、「基本的な生活習慣」（86.6%）である。

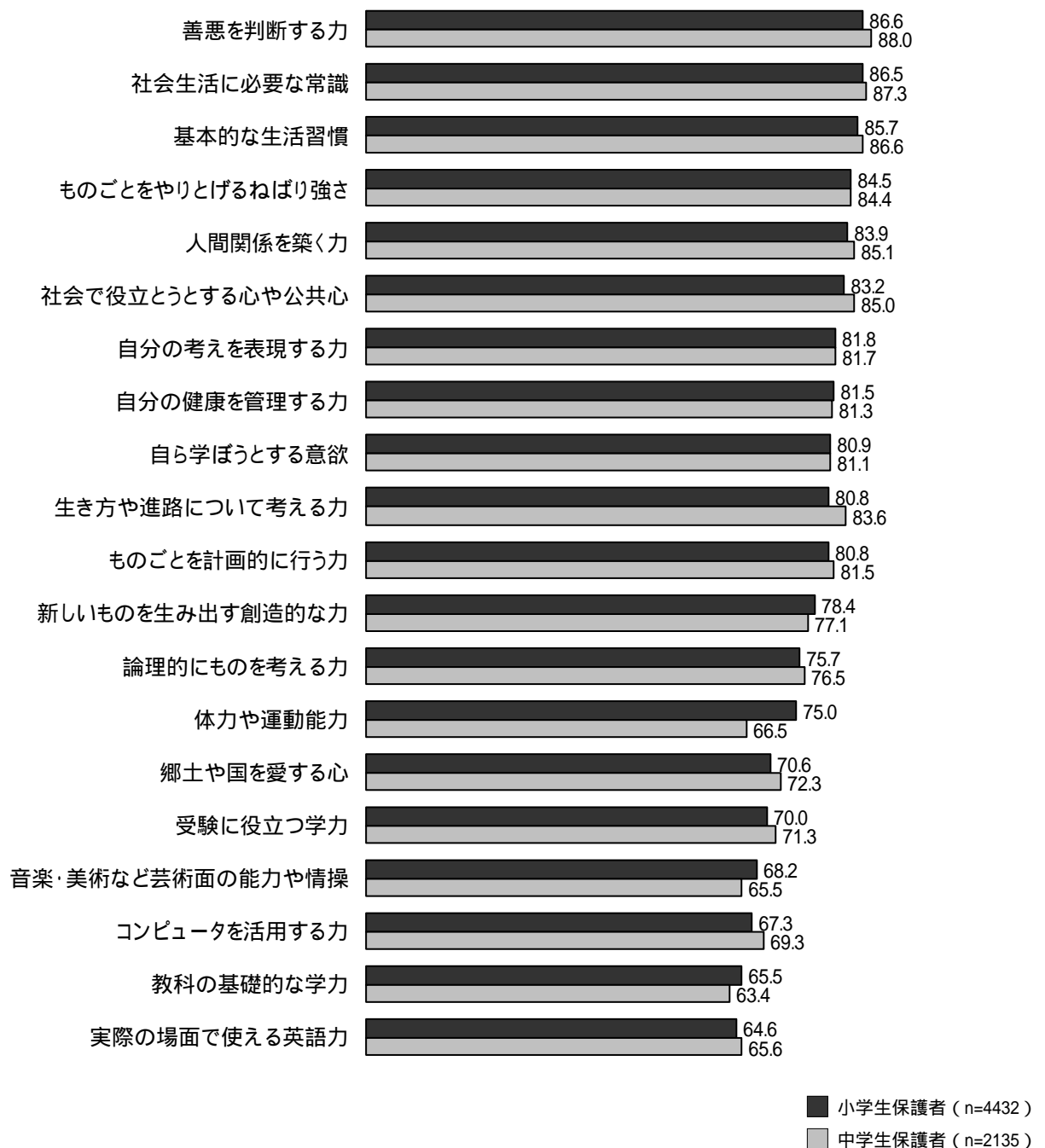
**図 2 - 2 - 2 学校外の教育で身につける必要性が高い能力・態度（中学生保護者）**



(%)

家庭教育など学校以外の場で身につける必要性が高いと考える能力や態度について、学校段階別に見てみたところ、**図2-2-3**のようになった。総じて、小学生保護者と中学生保護者の意見の差は小さい。5ポイント以上の差が開いているのは、「体力や運動能力」だけで、これは小学生の保護者のほうが必要性を強く感じている（「とても高い」と「やや高い」の合計：小学生保護者 75.0% > 中学生保護者 66.5%）。

**図2-2-3 学校外の教育で身につける必要性が高い能力・態度（学校段階別）**



\*「とても高い」と「やや高い」の合計(%)

ここまで、保護者が、「学校教育」と「家庭教育などの学校以外の教育」で、子どもにどのような能力や態度を身につけさせる必要があると感じているのかを見てきた。小学生の保護者について、この両者の関係を示したのが図2-2-4である。ここでは、必要性について「とても高い」と回答した比率をプロットした。図では、右に行くほど学校教育で身につける必要性が「とても高い」という回答が多いことを、上に行くほど家庭教育など学校以外の教育で身につける必要性が「とても高い」という回答が多いことを意味する。したがって、右上へ行くほど、学校と学校外の両方で身につける必要があると考えている項目であることを表す。

図に「 $y = x$ 」の補助線を引いたが、これを見ると多くの能力・態度がこの線の付近に位置していることがわかる。学校で身につける必要がある力は学校外でも身につける必要があると判断され、学校で身につける必要性が低い項目については学校外でも身につける必要性が低いと考えられる傾向がある。そのようななかで、「教科の基礎的な学力」は圧倒的に学校外よりも学校で身につける必要があると考えられている。反対に、学校よりも学校外での教育が必要と考えられているのは、「基本的な生活習慣」「自分の健康を管理する力」などである。

図2-2-4 身につける必要性のある能力・態度（小学生保護者）

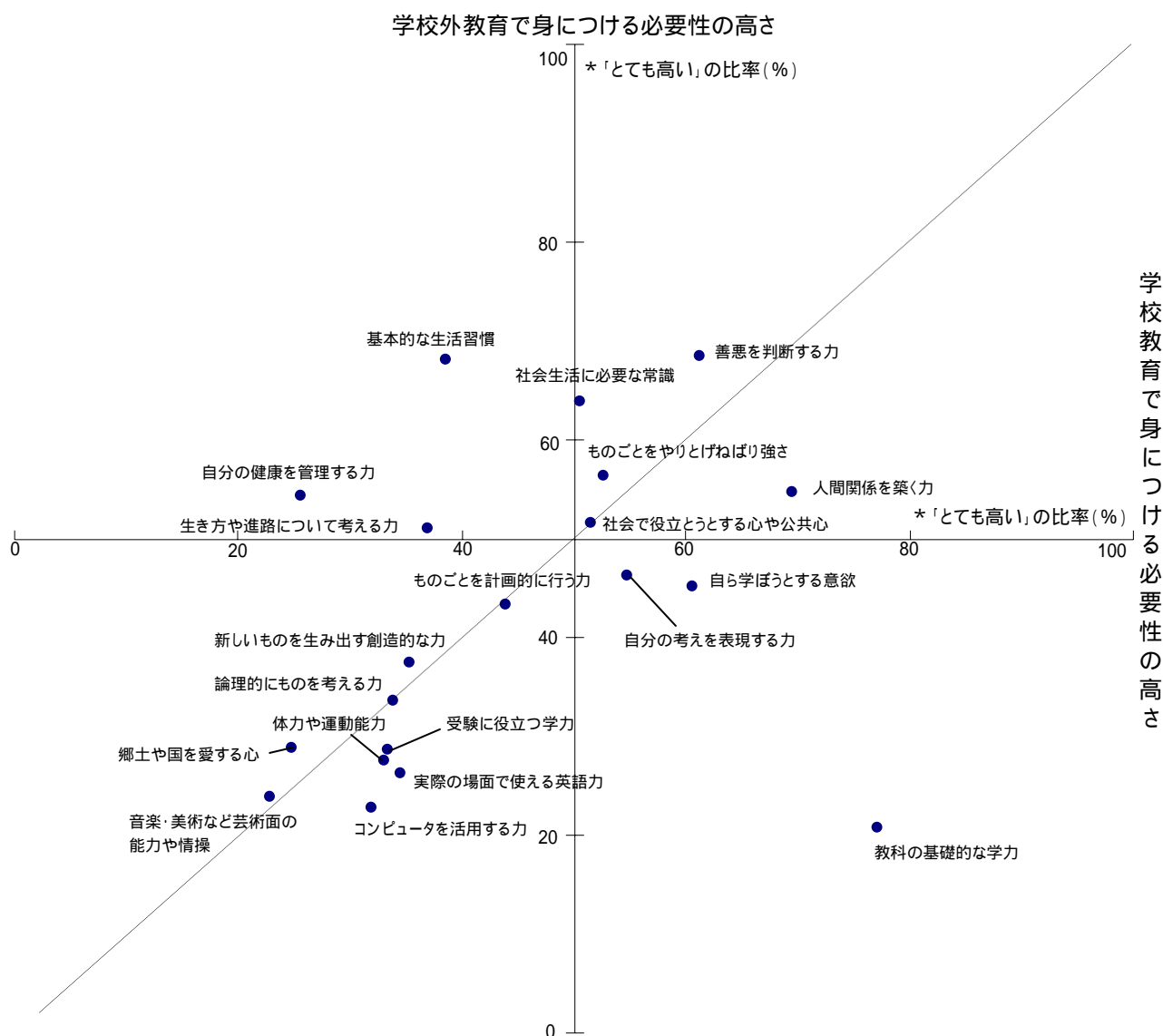
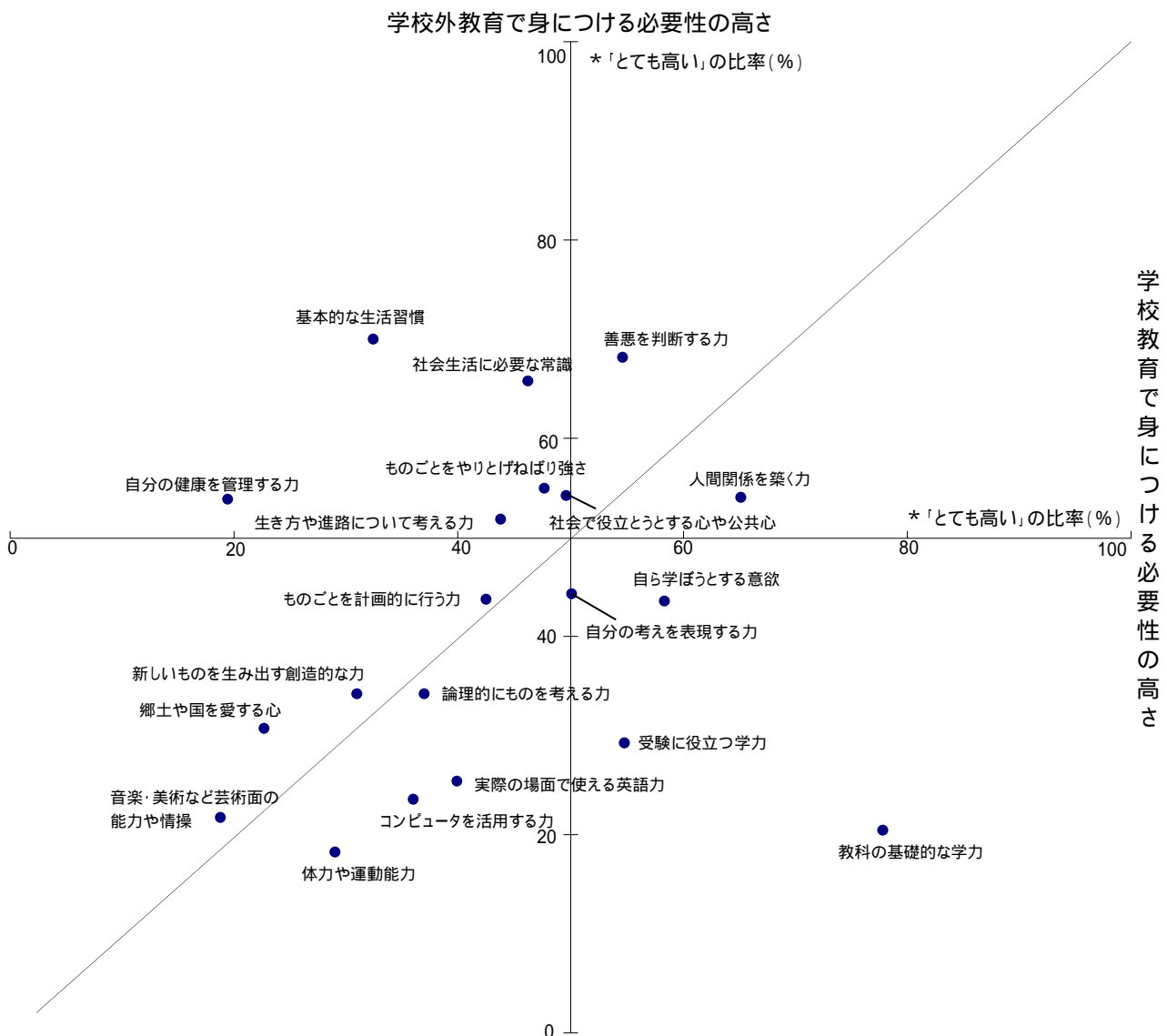


図2-2-4と同じように、中学生の保護者について見たのが図2-2-5である。プロットの位置を比較すると、小学生の保護者との違いはそれほど顕著ではない。中学生の保護者も、「教科の基礎的な学力」については、学校外の教育よりも学校教育で身につける必要性をとて強く感じている。また、「基本的な生活習慣」や「社会生活に必要な常識」「自分の健康を管理する力」などは、学校よりも家庭などの学校外教育の必要性を認識している。

小学生の保護者と中学生の保護者でもっとも大きく異なるのは、「受験に役立つ学力」に対する意識である。小学生の保護者は、相対的にみて学校教育でも学校外教育でも身につける必要性を強く感じていないが、中学生の保護者は、学校教育に期待するところが大きくなる。

図2-2-5 身につける必要性のある能力・態度（中学生保護者）



### 3 . 学校の満足度

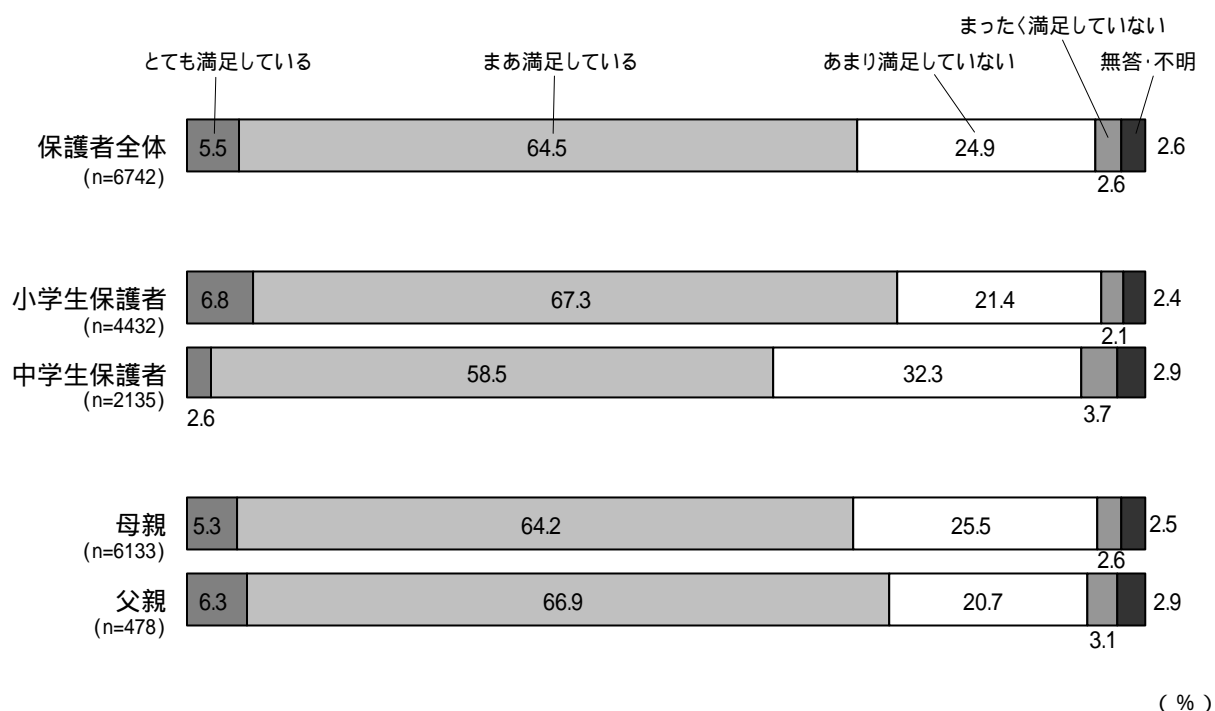
#### (1)学校の総合的な満足度

学校に対する満足度については、具体的な指導や取り組み 15 項目の評価と、それらを総合しての全体評価をたずねている。最初に全体像を明らかにするために、「総合的な満足度」を見てみよう（**図 2 - 3 - 1**）。

子どもが通っている学校に対して「満足している」（「とても満足している」と「まあ満足している」の合計）という回答は、保護者全体で 70.0%となっており、評価は概ね高いようである。ただし、「まあ満足している」という回答が多数を占め、「とても満足している」という回答は 5.5%にとどまっている。

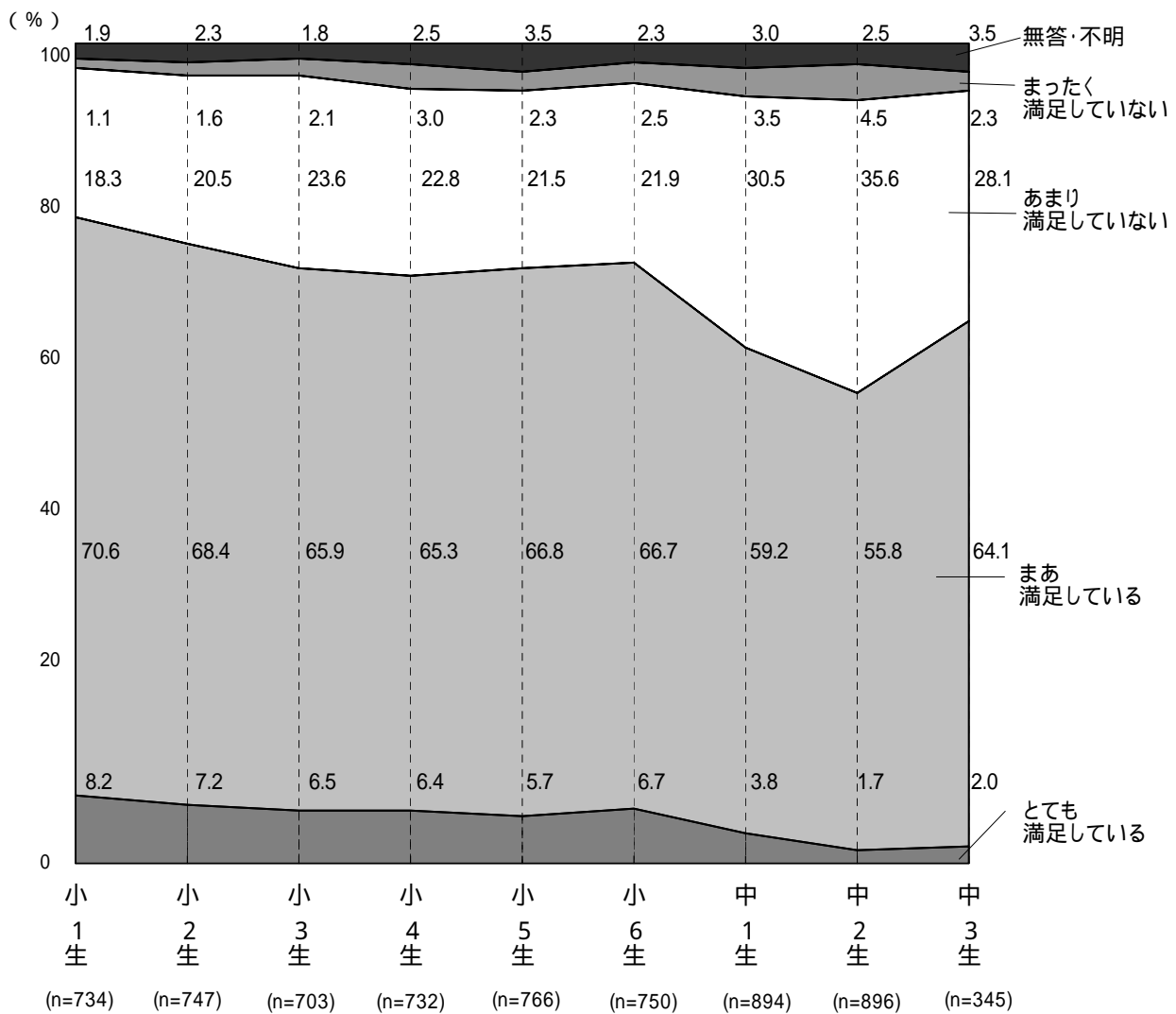
次に、学校段階別に見てみると、「満足している」と答えた割合は、小学生保護者 74.1% > 中学生保護者 61.1%となっており、小学生保護者の方が満足している比率が高い。さらに、父母別に見てみると、「満足している」と答えた割合は、母親 69.5% < 父親 73.2%となっており、母親と比較して父親の方が、学校に対して満足していることがわかる。

**図 2 - 3 - 1 学校の総合的な満足度（学校段階別・父母別）**



学校の総合的な満足度を学年別に見たのが、図2-3-2である。これを見ると、とくに「満足している」の割合は、小6生から大きく減少に転じ、中2生から中3生で上昇している。

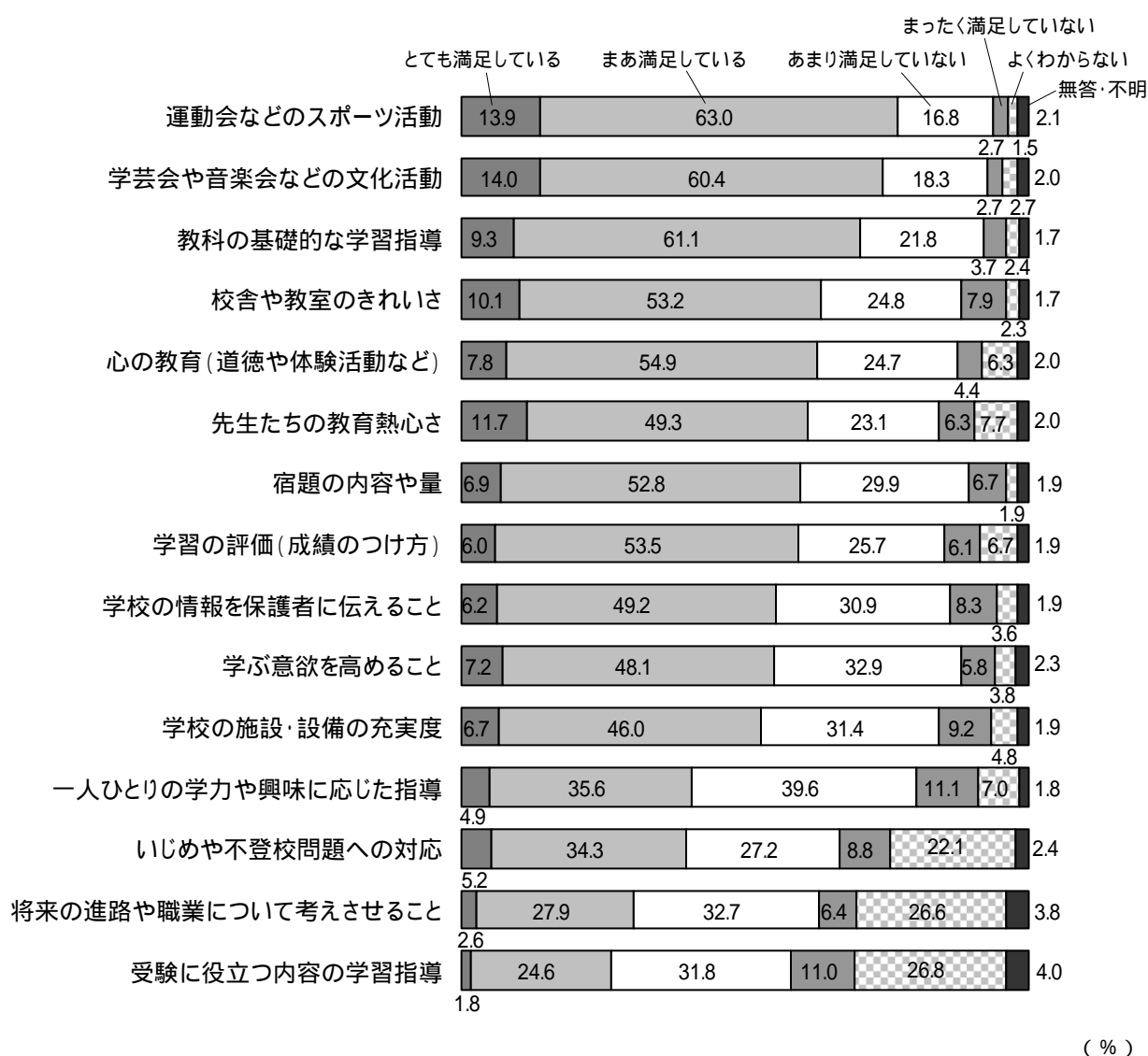
図2-3-2 学校の総合的な満足度（学年別）



(2)学校の指導や取り組みに対する満足度

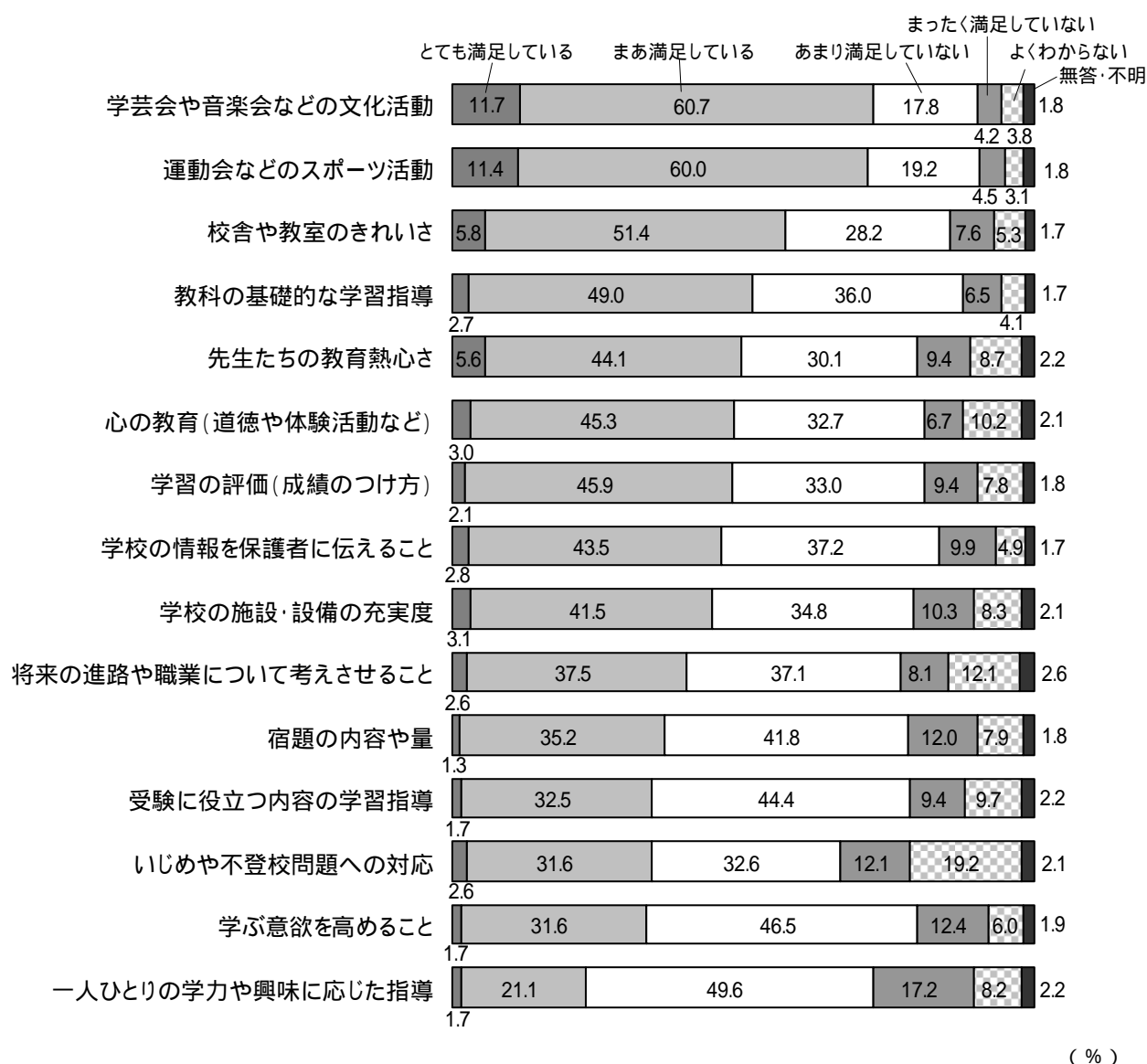
それでは、具体的な学校の指導や取り組みに対する満足度について見てみよう。最初に、小学生保護者に聞いた結果(図2-3-3)であるが、子どもが通う学校が行っている指導や取り組みに対して「満足している」「とても満足している」と「まあ満足している」の合計)と答えた比率は、「運動会などのスポーツ活動」(76.9%)、「学芸会や音楽会などの文化活動」(74.4%)、「教科の基礎的な学習指導」(70.4%)で多く、7割を超えている。一方、「一人ひとりの学力や興味に応じた指導」(40.5%)については、満足度が低い。「いじめや不登校問題への対応」(39.5%)、「将来の進路や職業について考えさせること」(30.5%)、「受験に役立つ内容の学習指導」(26.4%)なども、「満足している」の比率が低い。同時に「よくわからない」という回答も多い。

図2-3-3 学校の指導や取り組みに対する満足度(小学生保護者)



つづいて、子どもが通う学校の指導や取り組みに対する満足度について、中学生保護者に聞いた結果（図2-3-4）を見ていこう。「満足している」「とても満足している」と「まあ満足している」の合計）と答えた割合は、「学芸会や音楽会などの文化活動」（72.4%）、「運動会などのスポーツ活動」（71.4%）で多く、7割を超えている。一方、「受験に役立つ内容の学習指導」（34.2%）、「学ぶ意欲を高めること」（33.3%）、「一人ひとりの学力や興味に応じた指導」（22.8%）で「満足している」と回答した割合は、低くなっている。なお、「いじめや不登校問題への対応」（34.2%）については、「満足している」の比率は低いが、同時に「よくわからない」という回答も多い。

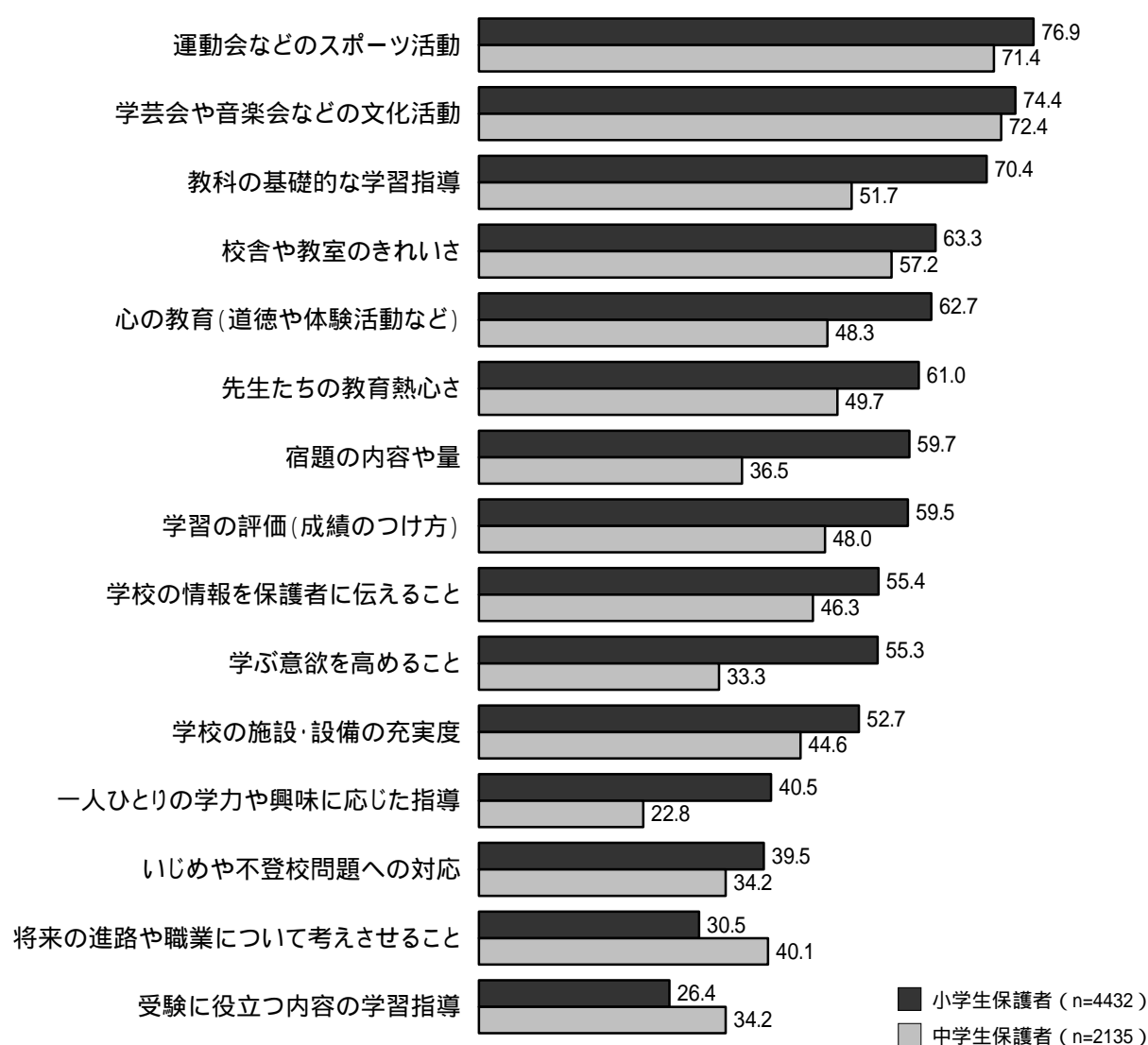
図2-3-4 学校の指導や取り組みに対する満足度（中学生保護者）





学校の指導や取り組みに対する満足度について学校段階別に比較したものが、**図2-3-5**である。指導や取り組みに対して「満足している」「とても満足している」と「まあ満足している」の合計と答えた割合は、「将来の進路や職業について考えさせること」「とても満足している」と「まあ満足している」の合計：小学生保護者 30.5% < 中学生保護者 40.1%、以下同様）、「受験に役立つ内容の学習指導」(26.4% < 34.2%) という進路・進学指導にかかわる項目以外では、いずれも、小学生保護者のほうが中学生保護者よりも高くなっている。とくに、「宿題の内容や量」(59.7% > 36.5%)、「学ぶ意欲を高めること」(55.3% > 33.3%)、「教科の基礎的な学習指導」(70.4% > 51.7%)、「一人ひとりの学力や興味に応じた指導」(40.5% > 22.8%) など、学習指導面で大きな差がある。

**図2-3-5 学校の指導や取り組みに対する満足度（学校段階別）**



\*「とても満足している」と「まあ満足している」の合計(%)

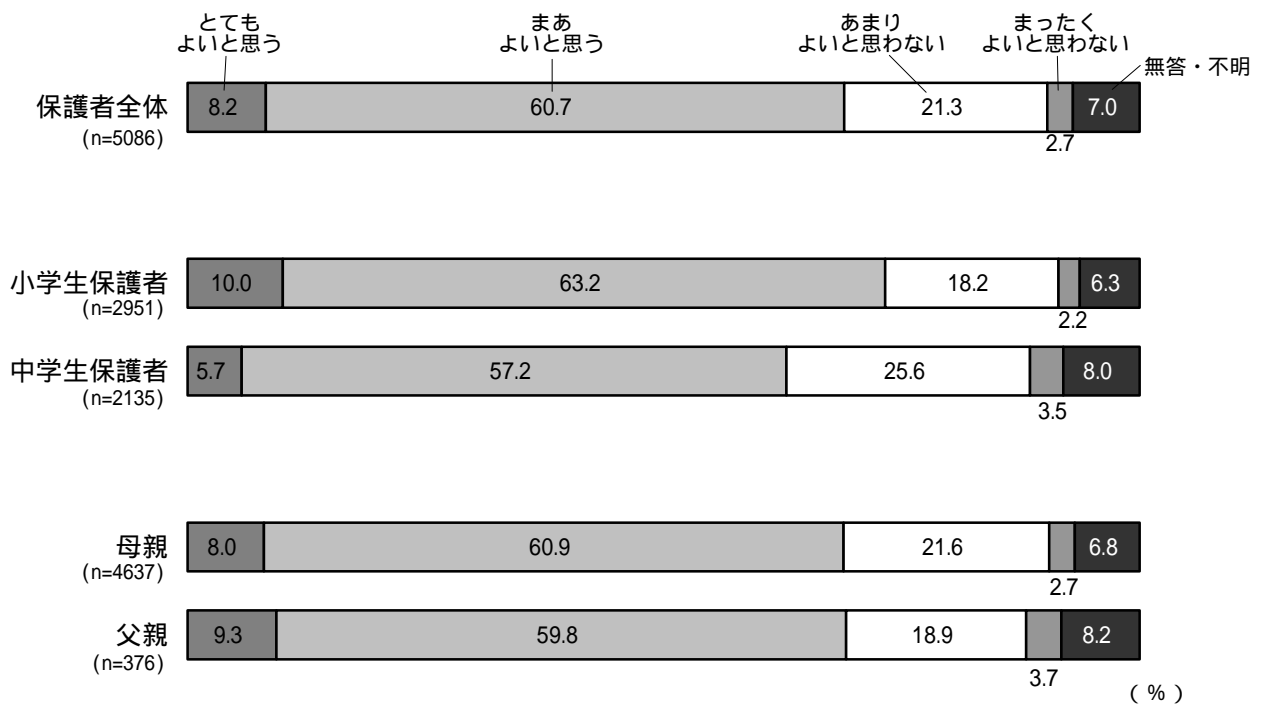
## 4 .「総合的な学習の時間」

### (1)取り組みについての評価

ここでは、「総合的な学習の時間」について、保護者がどのように考えているのかを見ていこう。なお、小1生と小2生は「総合的な学習の時間」を実施していないため、その保護者1,481名は、本節で扱う「総合的な学習の時間」に関する設問には、回答していない。

最初に、『総合的な学習の時間』の取り組みについて、どのようにお考えですか」とたずねた結果である(図2-4-1)。「よいと思う」「とてもよいと思う」と「まあよいと思う」の合計)と答えた割合は、68.9%となっており、保護者には、概ね受け入れられていることがわかる。父母別に見てみると、ほぼ同じであるが、学校段階別に見ると、小学生保護者73.2%>中学生保護者62.9%となっており、中学生保護者よりも小学生保護者の評価のほうが高いことがわかる。

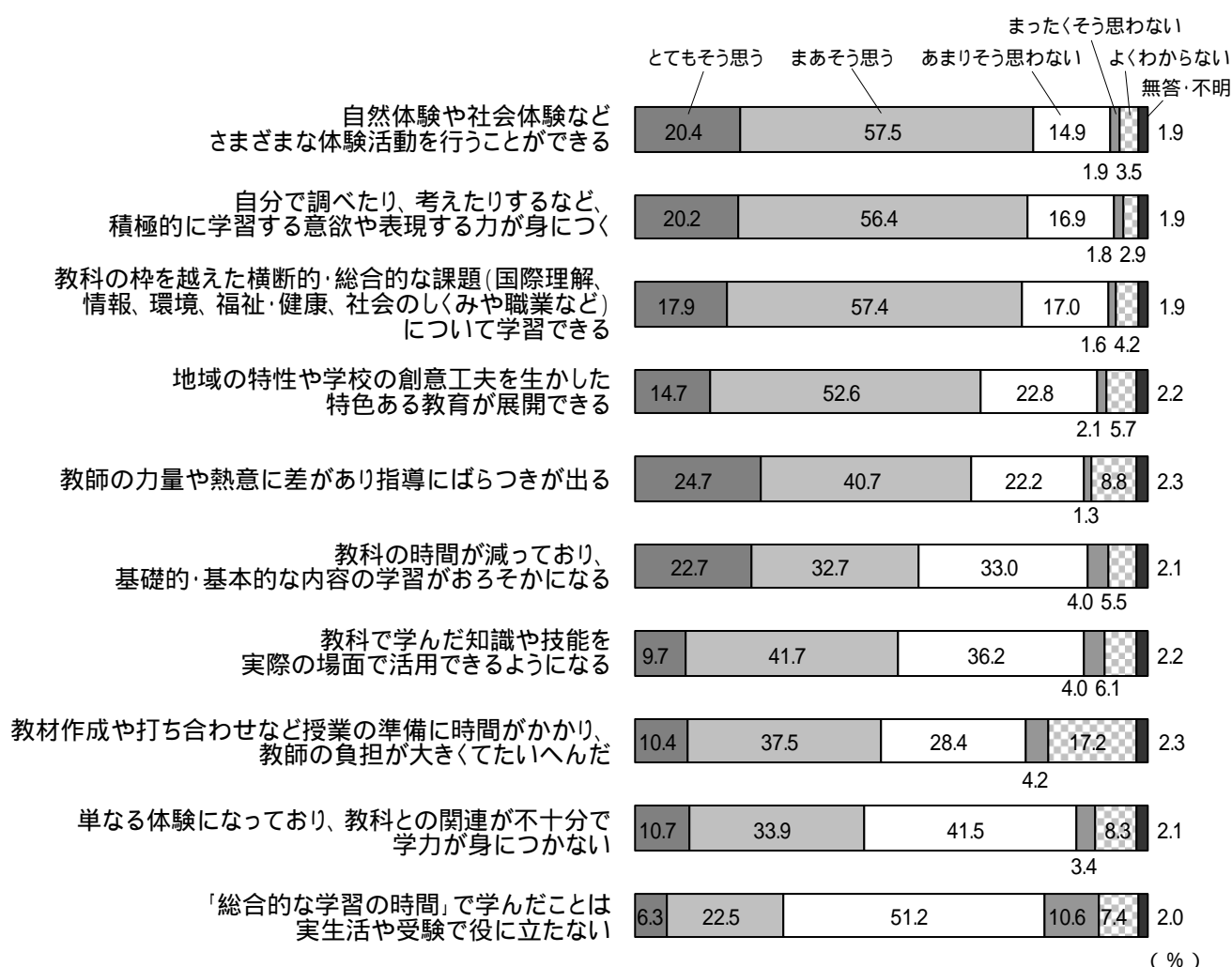
図2-4-1 「総合的な学習の時間」の取り組みについての評価(学校段階別、父母別)



(2) 取り組みに対する考え

次に、「総合的な学習の時間」の取り組みについて思うことをたずねた。図2-4-2は、小学生の保護者の回答結果である。「そう思う」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計)と答えた割合がもっとも高いのは、「自然体験や社会体験などさまざまな体験活動を行うことができる」(77.9%)であった。つづいて、「自分で調べたり、考えたりするなど、積極的に学習する意欲や表現する力が身につく」(76.6%)、「教科の枠を越えた横断的・総合的な課題について学習できる」(75.3%)が上位となっている。一方で、「『総合的な学習の時間』で学んだことは実生活や受験で役に立たない」(28.8%)がもっとも少なくなっており、「総合的な学習の時間」は、小学生保護者に概ね好意的に受け入れられていることがうかがえる。しかし、「教師の力量や熱意に差があり指導にばらつきが出る」(65.4%)、「教科の時間が減っており、基礎的・基本的な内容の学習がおろそかになる」(55.4%)では、「そう思う」が5割を超えており、不安や懸念ももっている様子である。

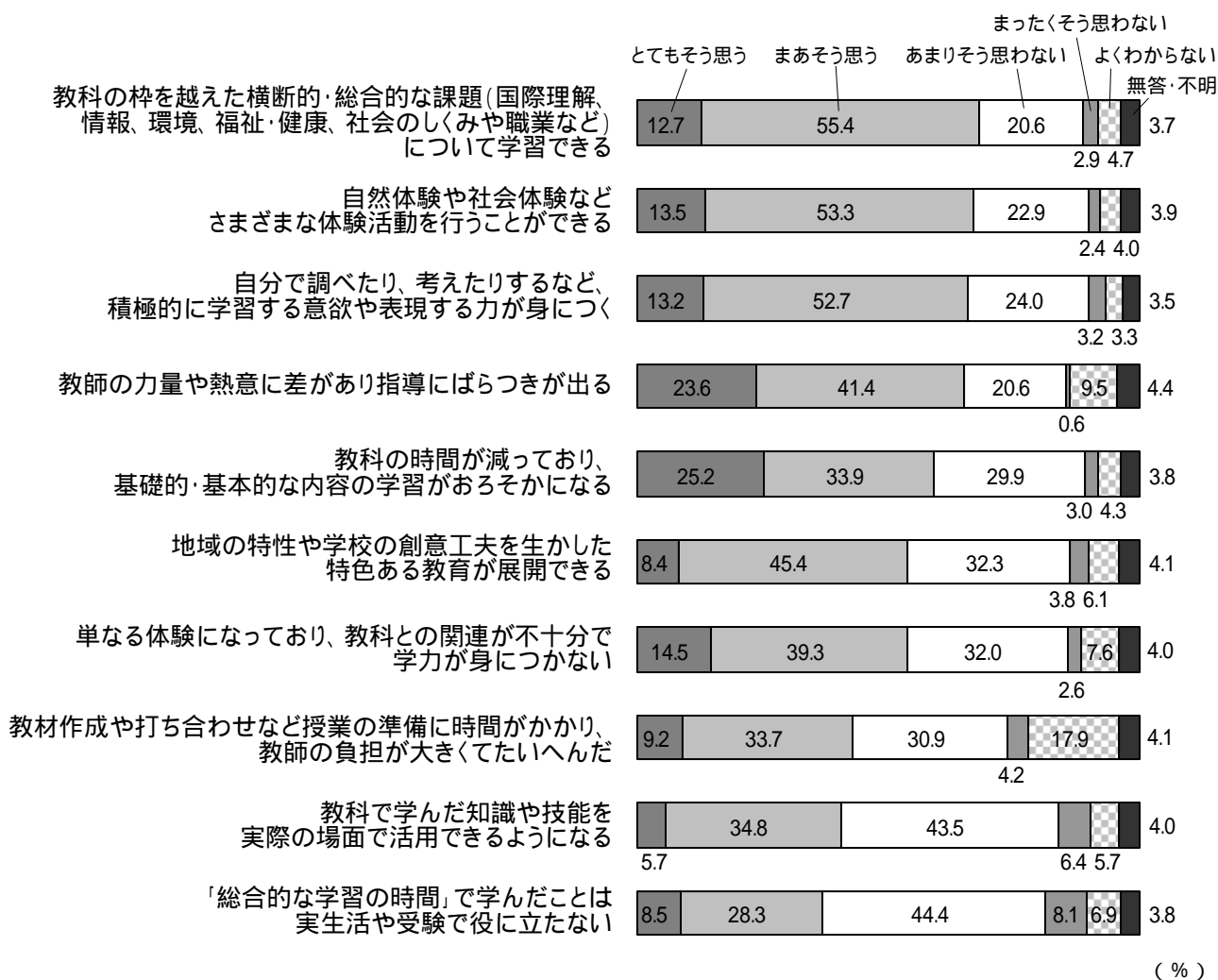
図2-4-2 「総合的な学習の時間」の取り組みに対する考え(小学生保護者)



\*小1生～小2生の保護者1,481名を除く、小3生～小6生の保護者2,951名を対象としている。

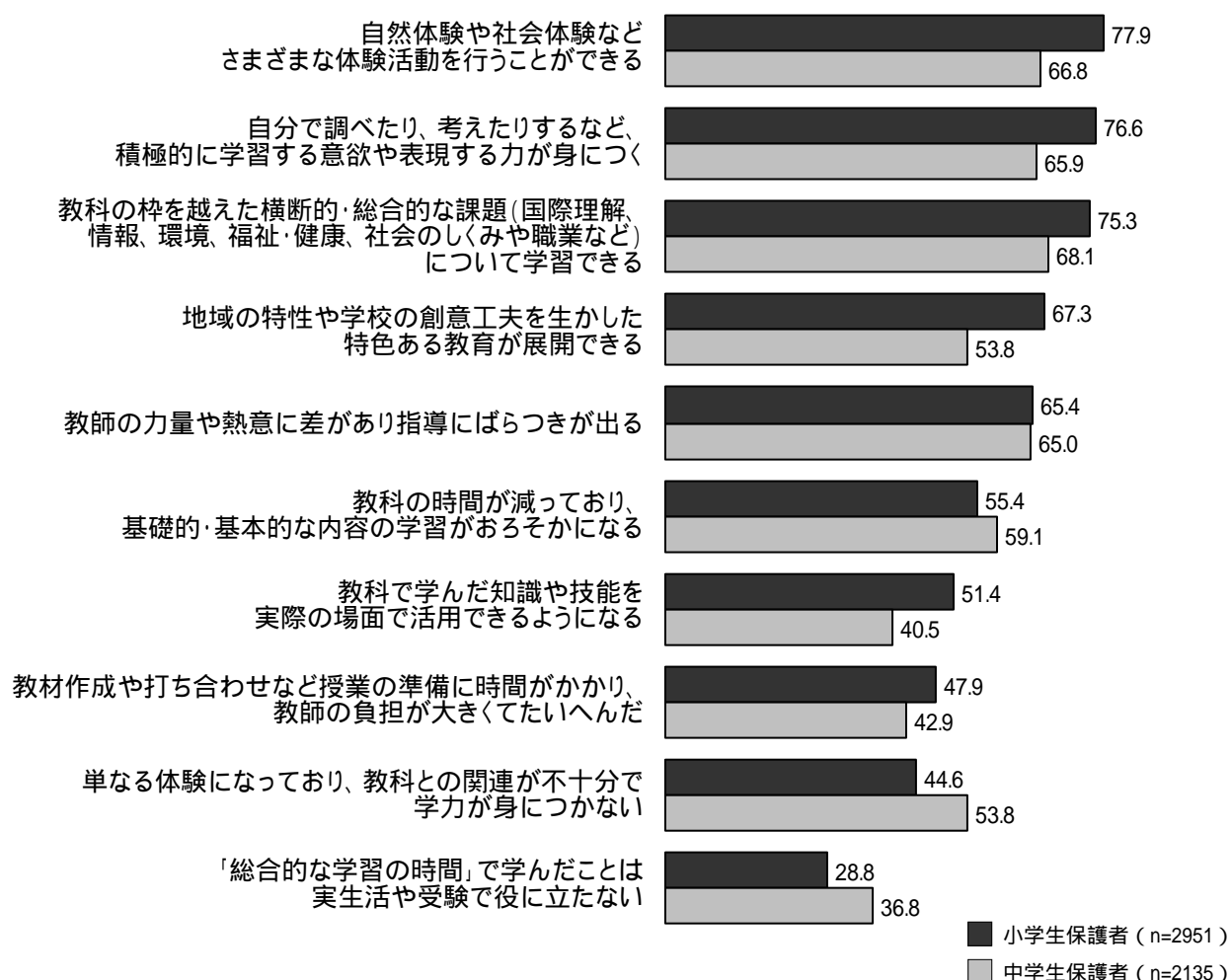
同様に、中学生保護者にも「総合的な学習の時間」の取り組みについて聞いたところ(図2-4-3)「そう思う」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計)と答えた割合がもっとも高いのは、「教科の枠を越えた横断的・総合的な課題について学習できる」(68.1%)であった。つづいて、「自然体験や社会体験などさまざまな体験活動を行うことができる」(66.8%)、「自分で調べたり、考えたりするなど、積極的に学習する意欲や表現する力が身につく」(65.9%)が多くなっている。一方で、「『総合的な学習の時間』で学んだことは実生活や受験で役に立たない」(36.8%)はもっとも少なくなっており、小学生保護者同様、中学生保護者にも、「総合的な学習の時間」は好意的に受け入れられていることがうかがえる。しかし、「教師の力量や熱意に差があり指導にばらつきが出る」(65.0%)、「教科の時間が減っており、基礎的・基本的な内容の学習がおろそかになる」(59.1%)と答えた割合も高く、小学生保護者同様、中学生保護者の間にも不安や懸念が見られる。

図2-4-3 「総合的な学習の時間」の取り組みに対する考え(中学生保護者)



「総合的な学習の時間」の取り組みに対する考えを学校段階別に見てみると(図2-4-4)、「自然体験や社会体験などさまざまな体験活動を行うことができる」(「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：小学生保護者 77.9% > 中学生保護者 66.8%、以下同様)、「自分で調べたり、考えたりするなど、積極的に学習する意欲や表現する力が身につく」(76.6% > 65.9%)、「教科の枠を越えた横断的・総合的な課題について学習できる」(75.3% > 68.1%)などで、小学生保護者が高く評価していることがわかる。また、「単なる体験になっており、教科との関連が不十分で学力が身につかない」(44.6% < 53.8%)、「『総合的な学習の時間』で学んだことは実生活や受験で役に立たない」(28.8% < 36.8%)、「教科の時間が減っており、基礎的・基本的な内容の学習がおろそかになる」(55.4% < 59.1%)など否定的な項目では、中学生保護者のほうが「そう思う」という回答が多くなっている。

図2-4-4 「総合的な学習の時間」の取り組みに対する考え(学校段階別)

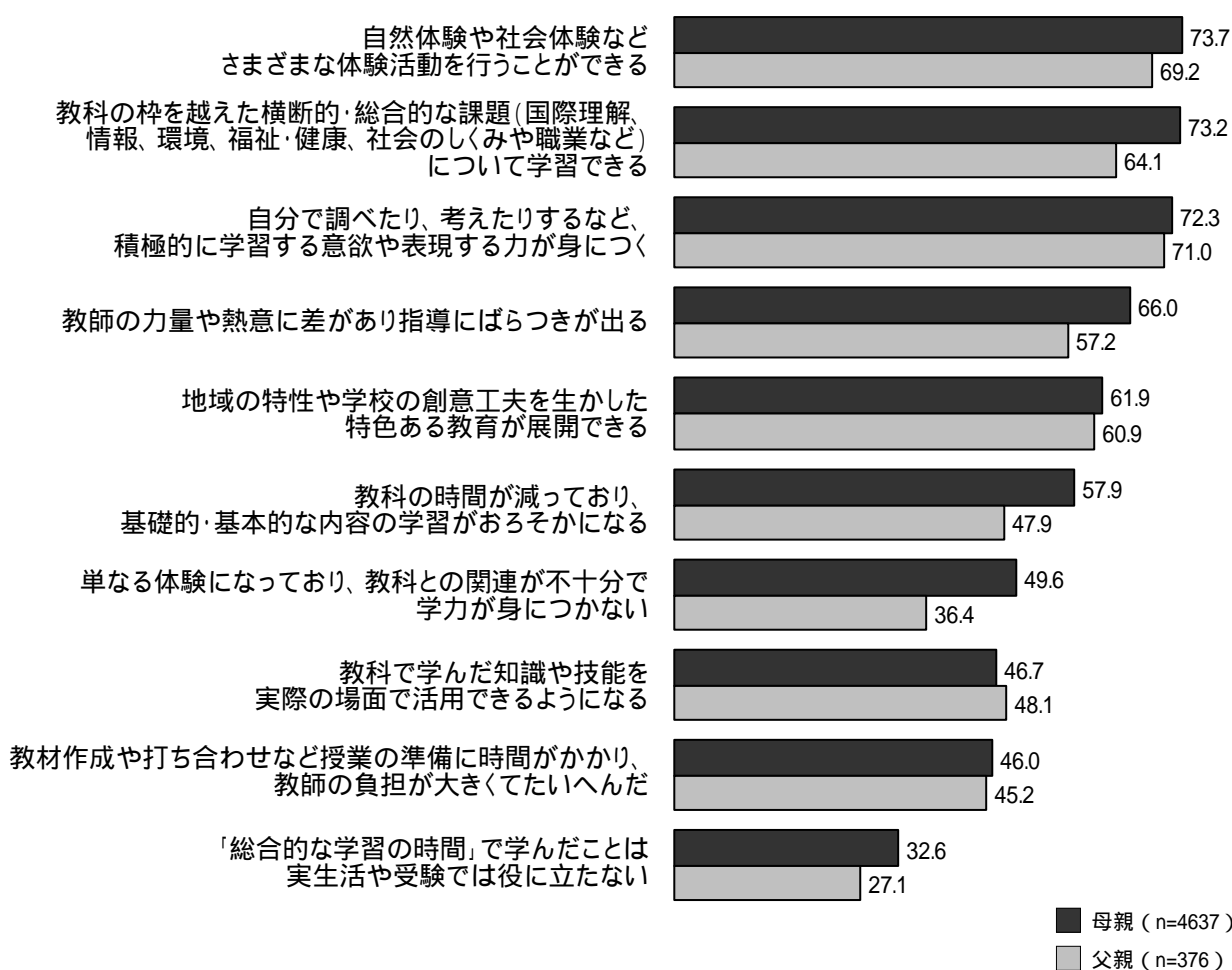


\*「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計(%)

\*小学生保護者は、小1生~小2生の保護者1,481名を除いている。

「総合的な学習の時間」の取り組みに対する考えについて、父母による意見の違いも確認しよう（図2-4-5）。ほぼ同率の項目もあるが、父親よりも母親のほうが、「そう思う」の比率が高い項目が多い。両者の差が大きいのは、「教科の枠を越えた横断的・総合的な課題（国際理解、情報、環境、福祉・健康、社会のしくみや職業など）について学習できる」（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：母親73.2% > 父親64.1%、以下同様）、「教師の力量や熱意に差があり指導にばらつきが出る」（66.0% > 57.2%）、「教科の時間が減っており、基礎的・基本的な内容の学習がおろそかになる」（57.9% > 47.9%）、「単なる体験になっており、教科との関連が不十分で学力が身につかない」（49.6% > 36.4%）などの項目である。

図2-4-5 「総合的な学習の時間」の取り組みに対する考え（父母別）



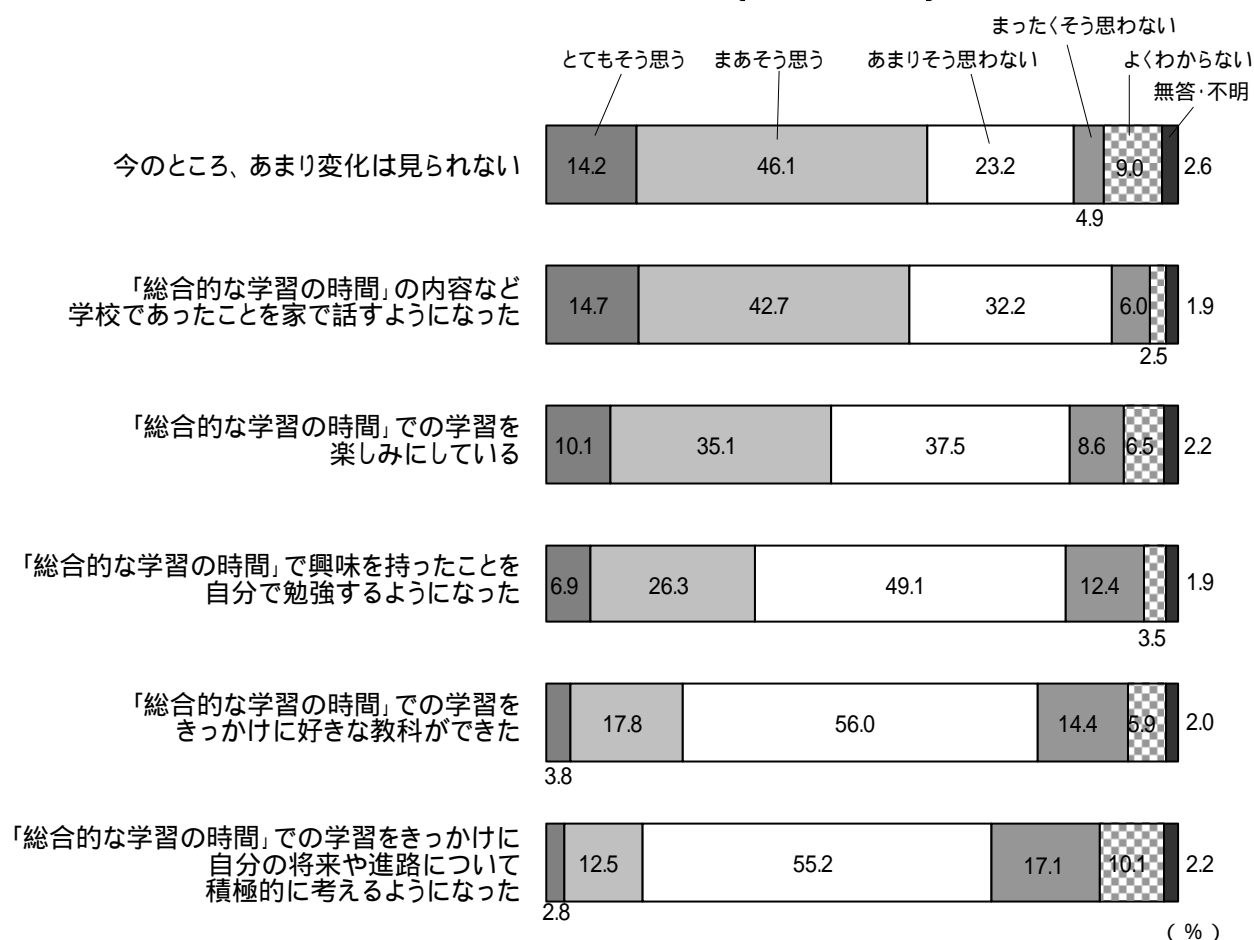
\*「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計 (%)

\*小1生～小2生の保護者1,481名を除いている。

(3) 「総合的な学習の時間」による子どもの変化

つづいて、「総合的な学習の時間」の学習や活動で子どもがどう変化したかについてたずねた。図2-4-6は、小学生保護者の回答結果である。「そう思う」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計)と答えた割合がもっとも高いのは、「今のところ、あまり変化は見られない」(60.3%)であり、次いで、「『総合的な学習の時間』の内容など学校であったことを家で話すようになった」(57.4%)であった。また、「『総合的な学習の時間』での学習をきっかけに自分の将来や進路について積極的に考えるようになった」は15.3%にとどまっている。

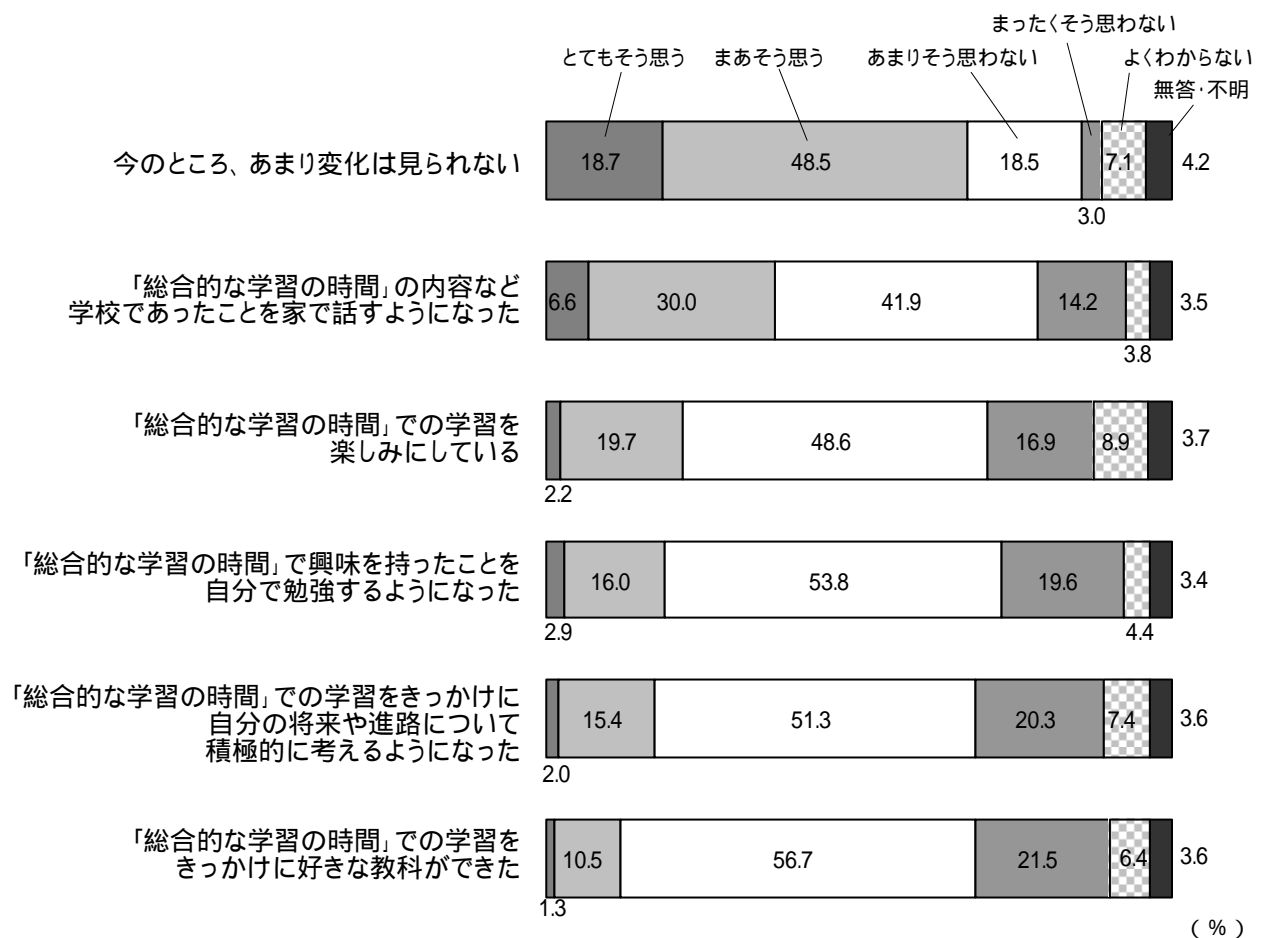
図2-4-6 「総合的な学習の時間」による子どもの変化(小学生保護者)



\*小1生～小2生の保護者1,481名を除く、小3生～小6生の保護者2,951名を対象としている。

同様に中学生の保護者にも、「総合的な学習の時間」による子どもの変化についてたずねた（図2-4-7）。「そう思う」（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計）と答えた割合がもっとも高いのは、小学生の保護者同様「今のところ、あまり変化は見られない」（67.2%）であった。小学生保護者では57.4%と比較的多かった『総合的な学習の時間』の内容など学校であったことを家で話すようになった」の割合は、中学生保護者では36.6%と4割に満たない。また、『総合的な学習の時間』での学習をきっかけに好きな教科ができた」は11.8%にとどまっている。

図2-4-7 「総合的な学習の時間」による子どもの変化（中学生保護者）



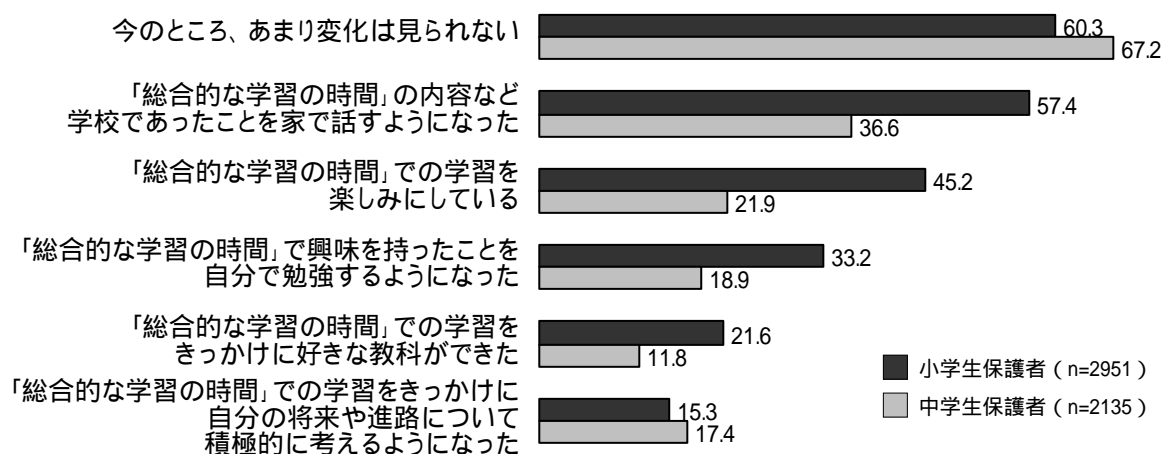


さらに、「総合的な学習の時間」による子どもの変化について、学校段階別、父母別に見てみよう。

はじめに学校段階による違い(図2-4-8)であるが、「『総合的な学習の時間』の内容など学校であったことを家で話すようになった」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計:小学生保護者 57.4% > 中学生保護者 36.6%、以下同様)、「『総合的な学習の時間』での学習を楽しみにしている」(45.2% > 21.9%)で大きく差がついており、小学生保護者に「そう思う」という回答が多い。

次に、父母による違い(図2-4-9)であるが、「『総合的な学習の時間』の内容など学校であったことを家で話すようになった」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計:母親 49.1% > 父親 43.0%、以下同様)、「今のところ、あまり変化は見られない」(63.7% > 58.3%)の2項目で、母親の割合が高くなっている。

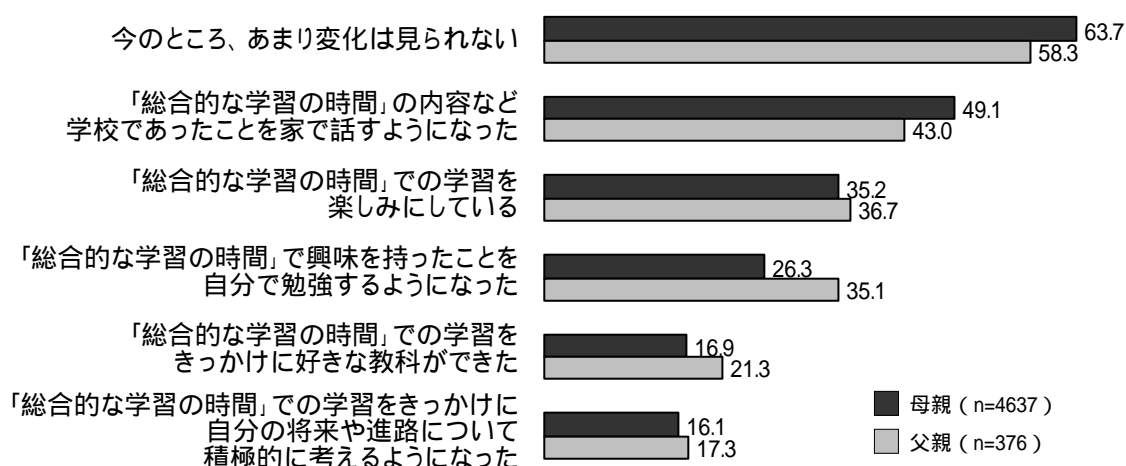
図2-4-8 「総合的な学習の時間」による子どもの変化(学校段階別)



\*「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計(%)

\*小学生保護者は、小1生~小2生の保護者1,481名を除いている。

図2-4-9 「総合的な学習の時間」による子どもの変化(父母別)



\*「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計(%)

\*小1生~小2生の保護者1,481名を除いている。

(4) 「総合的な学習の時間」についての意見

「総合的な学習の時間」についての設問の最後に、今後どのようにすればよいと思うか意見をたずねた。図2-4-10は、小学生の保護者の回答結果である。「そう思う」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計)がもっとも多いのは、「もっと国語や算数・数学など教科の学習を重視すべき」(58.7%)であり、次いで「『総合的な学習の時間』を担当する専門の先生を置くべき」(54.3%)であった。一方、もっとも少なかったのは、「なくした方がよい」(18.2%)であった。

図2-4-11は、中学生の保護者の回答結果である。中学生保護者も小学生保護者と同様に、「もっと国語や算数・数学など教科の学習を重視すべき」(62.2%)がもっとも「そう思う」という回答が多く、「なくした方がよい」(24.2%)と考える保護者は、少なかった。

図2-4-10 「総合的な学習の時間」についての意見（小学生保護者）

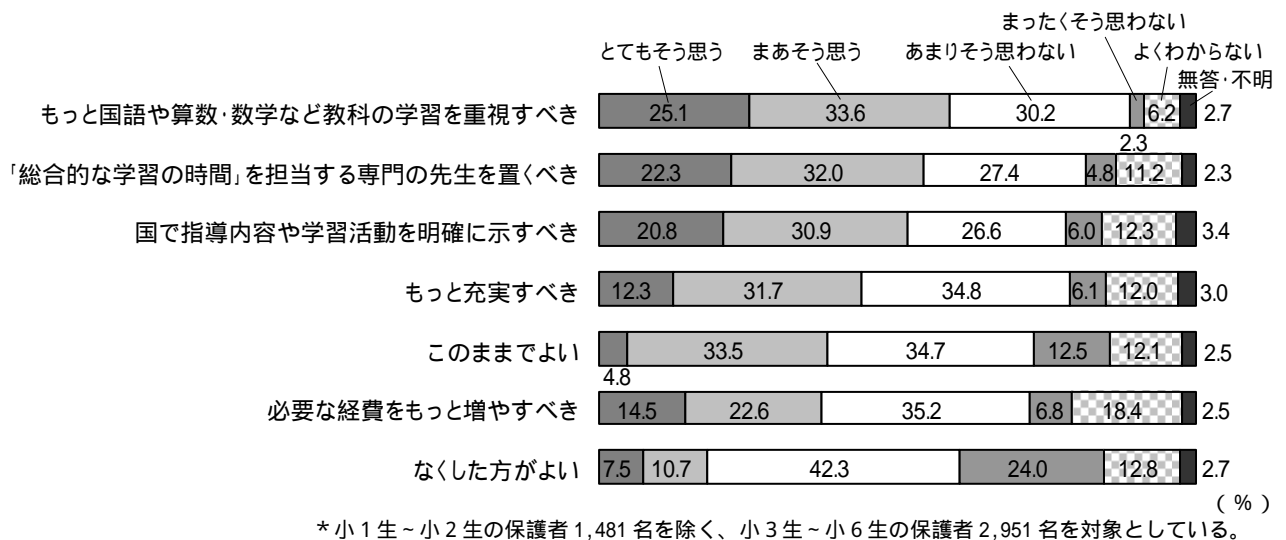
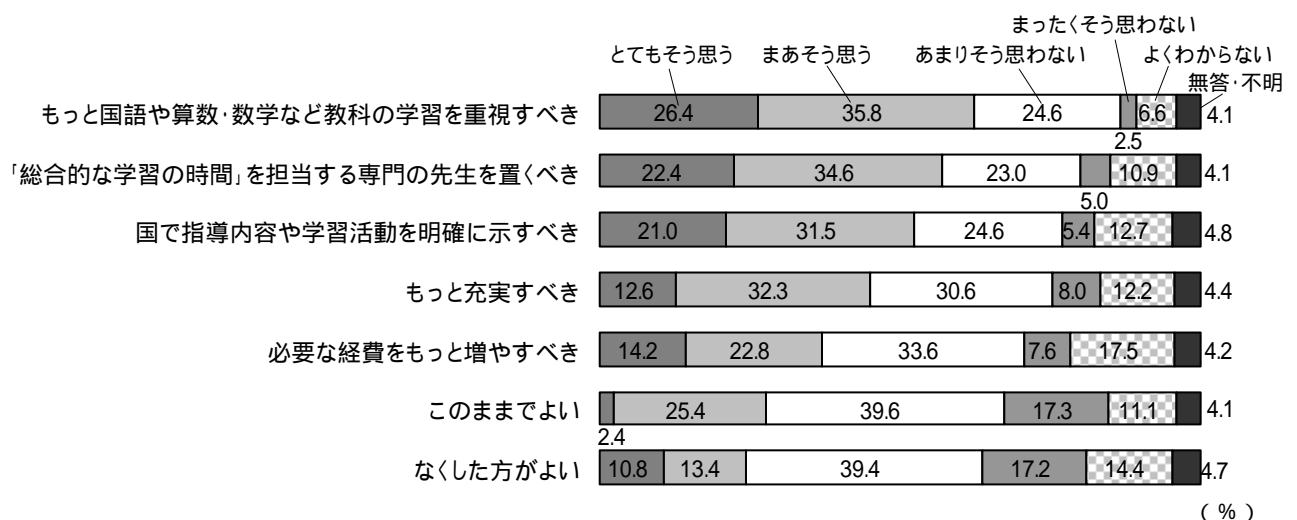


図2-4-11 「総合的な学習の時間」についての意見（中学生保護者）



さらに、「総合的な学習の時間」についての意見を、学校段階別、父母別に見てみよう。

はじめに学校段階による違い(図2-4-12)であるが、「このままでよい」に「そう思う」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計)と回答しているのは、小学生保護者 38.3% > 中学生保護者 27.8%となっていて、小学生をもつ保護者の方に現状維持を望むものが多い。「もっと国語や算数・数学など教科の学習を重視すべき」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：小学生保護者 58.7% < 中学生保護者 62.2%、以下同様)「なくした方がよい」(18.2% < 24.2%)は中学生の保護者に多い。

次に、父母の違い(図2-4-13)であるが、「もっと国語や算数・数学など教科の学習を重視すべき」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：母親 61.0% > 父親 50.8%、以下同様)「『総合的な学習の時間』を担当する専門の先生を置くべき」(56.3% > 45.2%)で、父親よりも母親のほうが「そう思う」の割合が高くなっている。

図2-4-12 「総合的な学習の時間」についての意見(学校段階別)

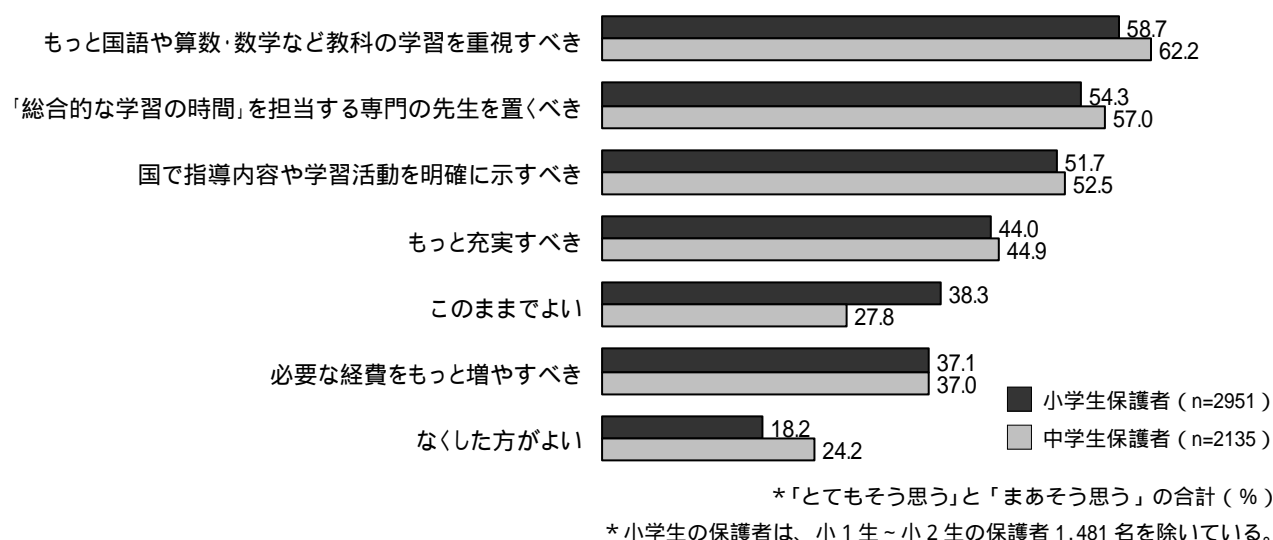
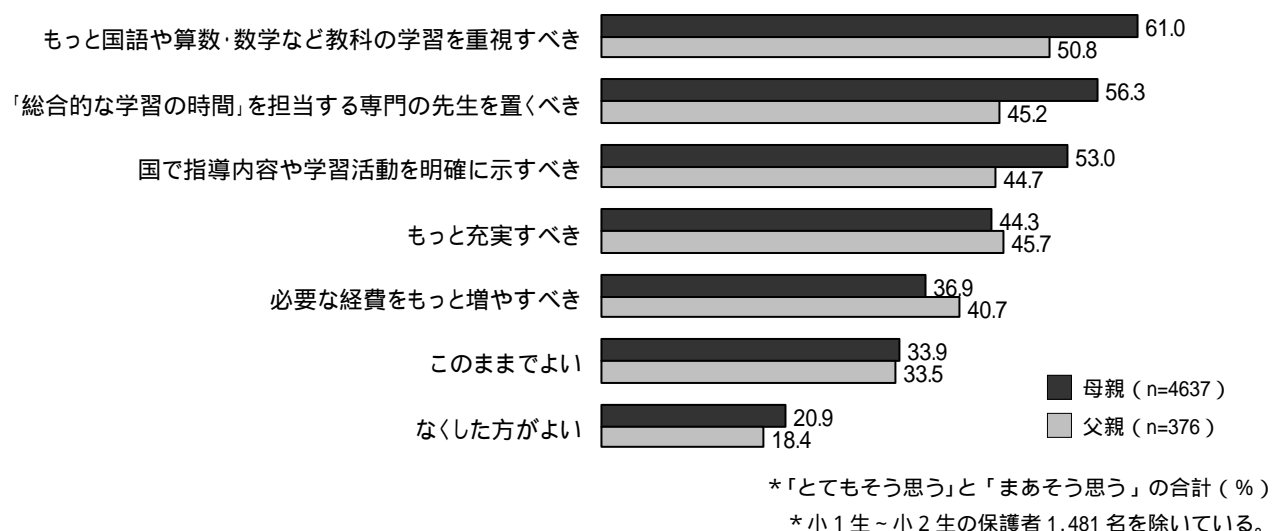


図2-4-13 「総合的な学習の時間」についての意見(父母別)



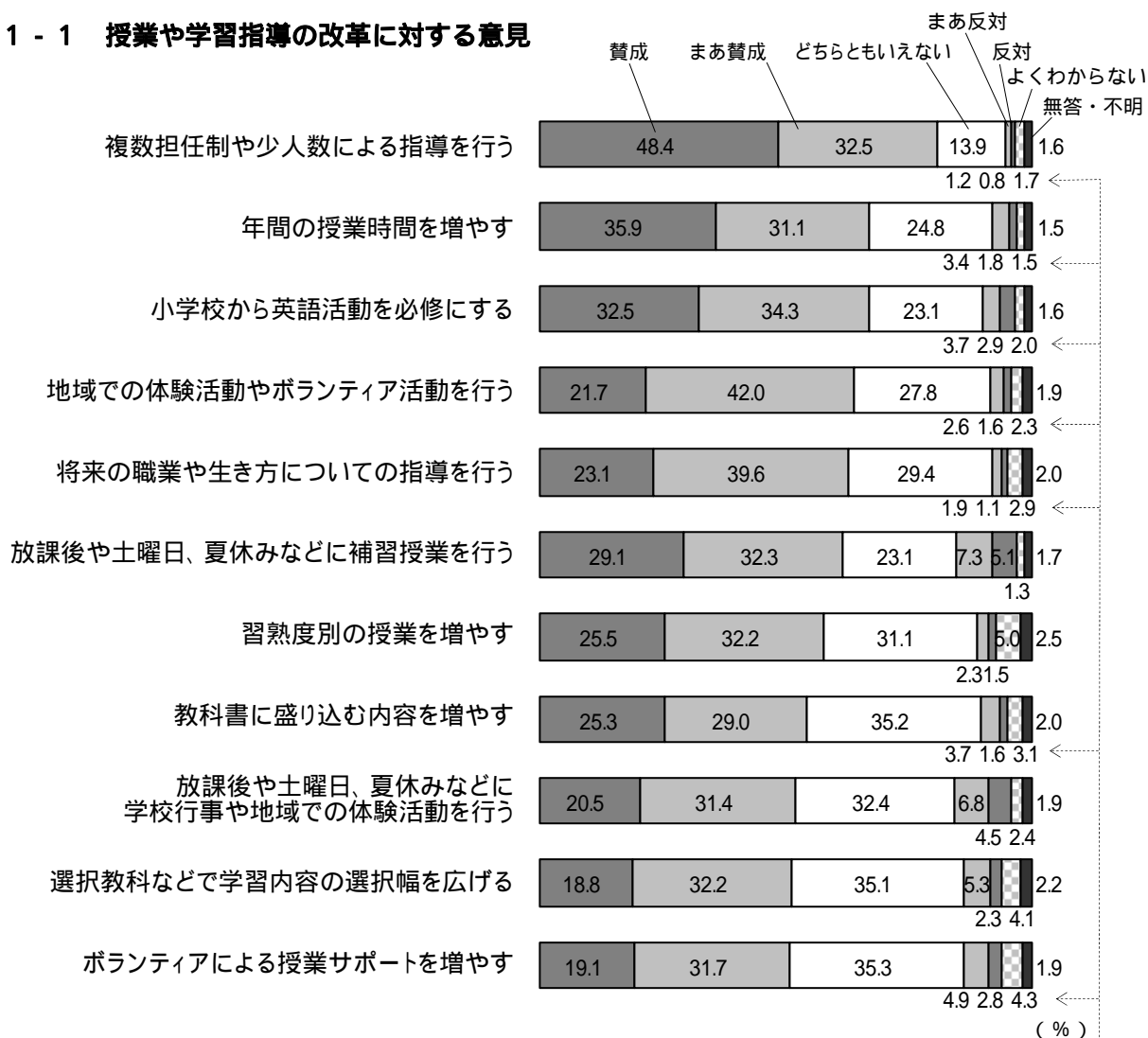
### 3章 教育改革に対する意見

#### 1. 授業や学習指導の改革に対する意見

本章では、教育改革の一環として実践の一部に取り入れられたり、現在検討されたりしている取り組みについて、保護者に賛否をたずねた結果を見ていく。

最初に、授業や学習指導についての意見（図3-1-1）を見てみよう。「賛成」「賛成」と「まあ賛成」の合計）と答えた割合がもっとも高かった項目は、「複数担任制や少人数による指導を行う」（80.9%）であった。つづいて、「年間の授業時間を増やす」（67.0%）、「小学校から英語活動を必修にする」（66.8%）となっている。逆に、比較的少なかったものとしては「選択教科などで学習内容の選択幅を広げる」（51.0%）、「ボランティアによる授業サポートを増やす」（50.8%）などであった。

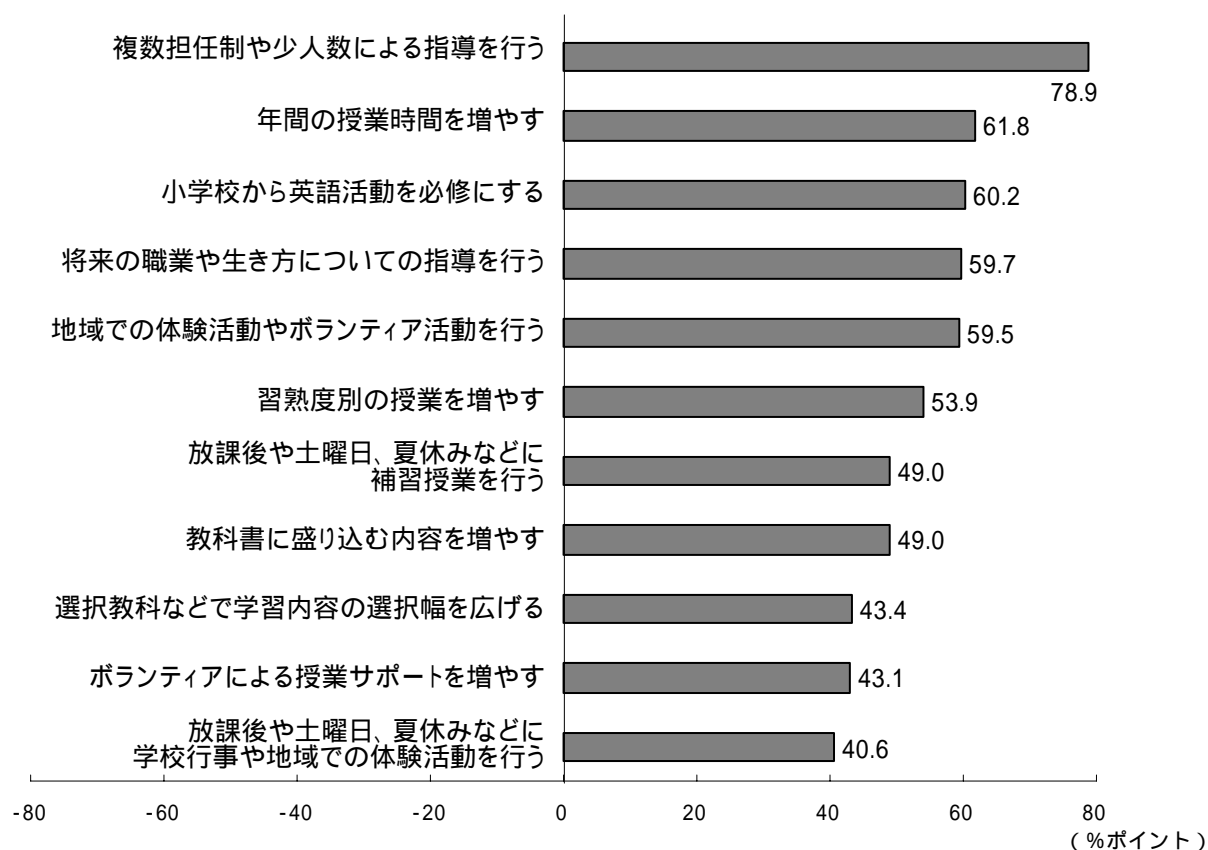
図3-1-1 授業や学習指導の改革に対する意見



\* 数値は左から「まあ反対」「反対」「よくわからない」を示す。

同じく、授業や学習指導の改革について、「賛成」の回答（「賛成」と「まあ賛成」の合計）から「反対」の回答（「反対」と「まあ反対」の合計）を引いて、賛成多数か反対多数かを見てみた（図3-1-2）。この結果、図に示したように、すべての項目において賛成が反対を上回っている。「複数担任制や少人数による指導を行う」（78.9ポイント）がもっとも差が大きく、「放課後や土曜日、夏休みなどに学校行事や地域での体験活動を行う」（40.6ポイント）がもっとも差が小さい項目であった。

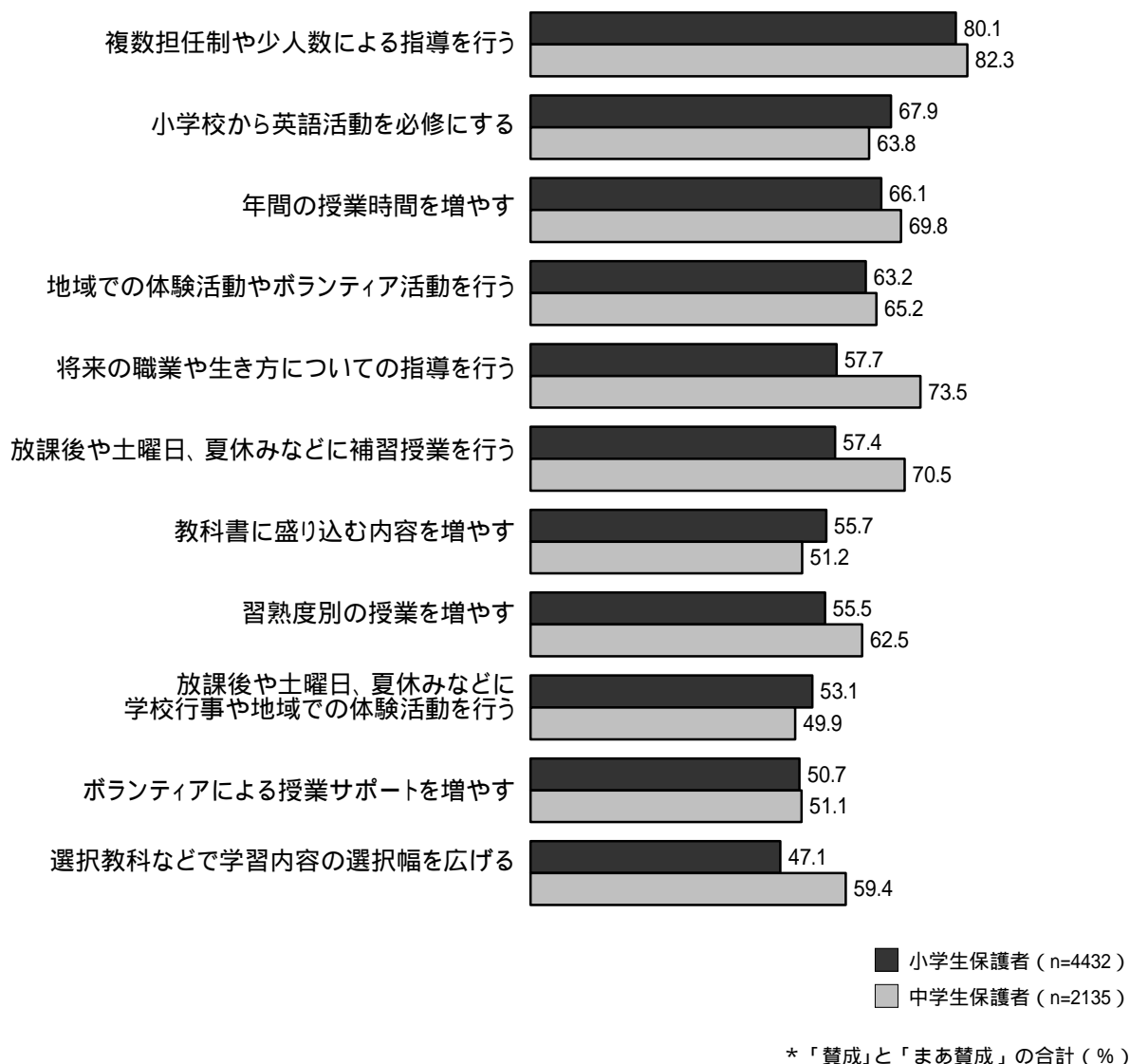
図3-1-2 授業や学習指導の改革に対する意見（「賛成」 - 「反対」のポイント）



\* 「賛成」(「賛成」と「まあ賛成」の合計) から「反対」(「反対」と「まあ反対」の合計) を引いて作図した。

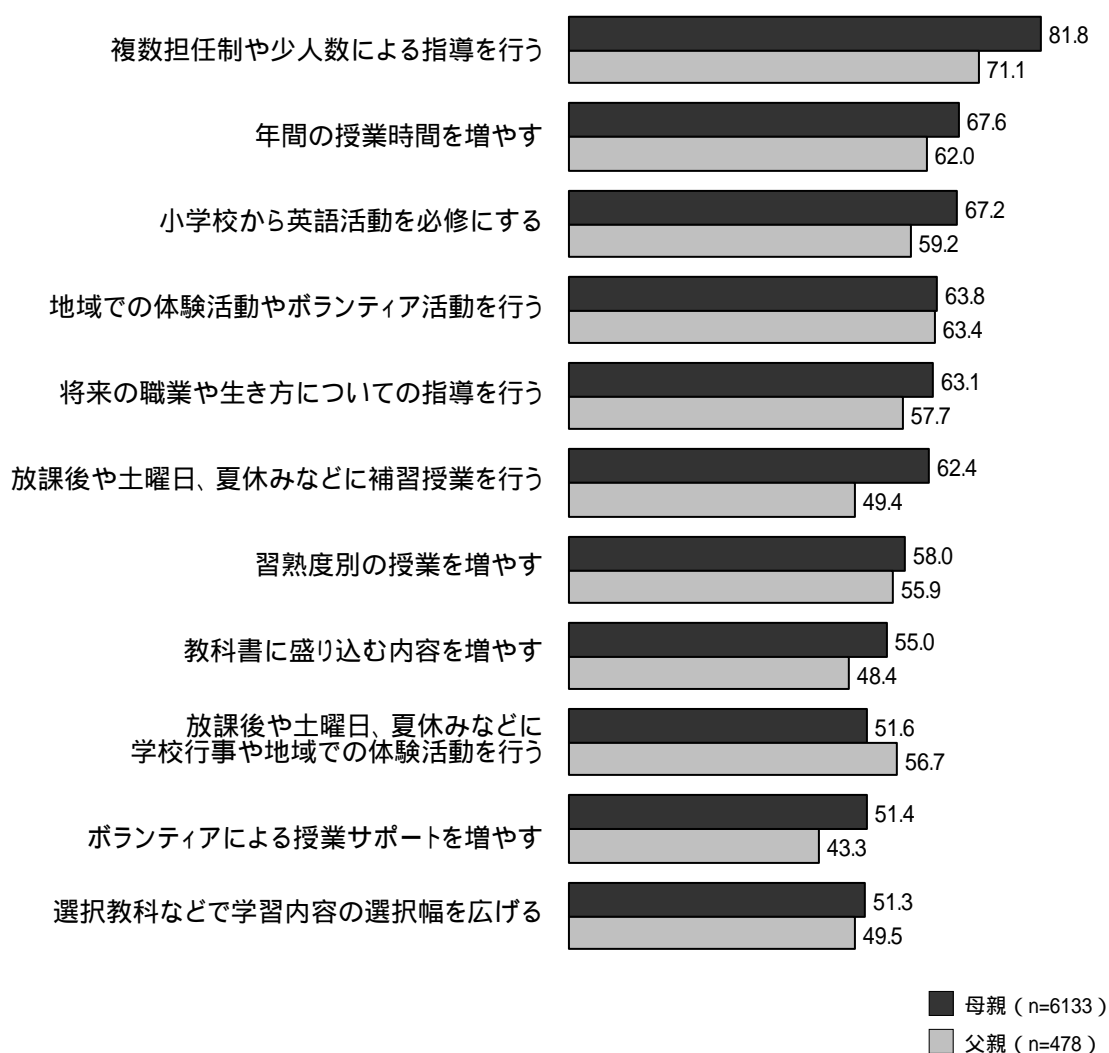
つづいて、授業や学習指導の改革に対する意見を学校段階別にみたのが、**図3 - 1 - 3**である。「賛成」「賛成」と「まあ賛成」の合計）と答えた割合を見ていくと、「将来の職業や生き方についての指導を行う」（「賛成」と「まあ賛成」の合計：小学生保護者 57.7% < 中学生保護者 73.5%、以下同様）、「放課後や土曜日、夏休みなどに補習授業を行う」（57.4% < 70.5%）、「選択教科などで学習内容の選択幅を広げる」（47.1% < 59.4%）で、とくに小学生保護者よりも中学生保護者の賛成の割合が高くなっている。一方、中学生保護者よりも小学生保護者の割合が高い項目もいくつかあるが、5ポイント以上の差が開くものはなかった。

**図3 - 1 - 3 授業や学習指導の改革に対する意見（学校段階別）**



さらに、授業や学習指導の改革に対する意見を父母別にみたのが、**図3 - 1 - 4**である。「賛成」(「賛成」と「まあ賛成」の合計)と答えた割合を見ていくと、「放課後や土曜日、夏休みなどに補習授業を行う」(「賛成」と「まあ賛成」の合計：母親 62.4% > 父親 49.4%、以下同様)、「複数担任制や少人数による指導を行う」(81.8% > 71.1%)で、父親よりも母親の割合が 10 ポイント以上高くなっている。一方、母親よりも父親の割合が高いものは、「放課後や土曜日、夏休みなどに学校行事や地域での体験活動を行う」(51.6% < 56.7%)のみとなっている。

**図3 - 1 - 4 授業や学習指導の改革に対する意見（父母別）**

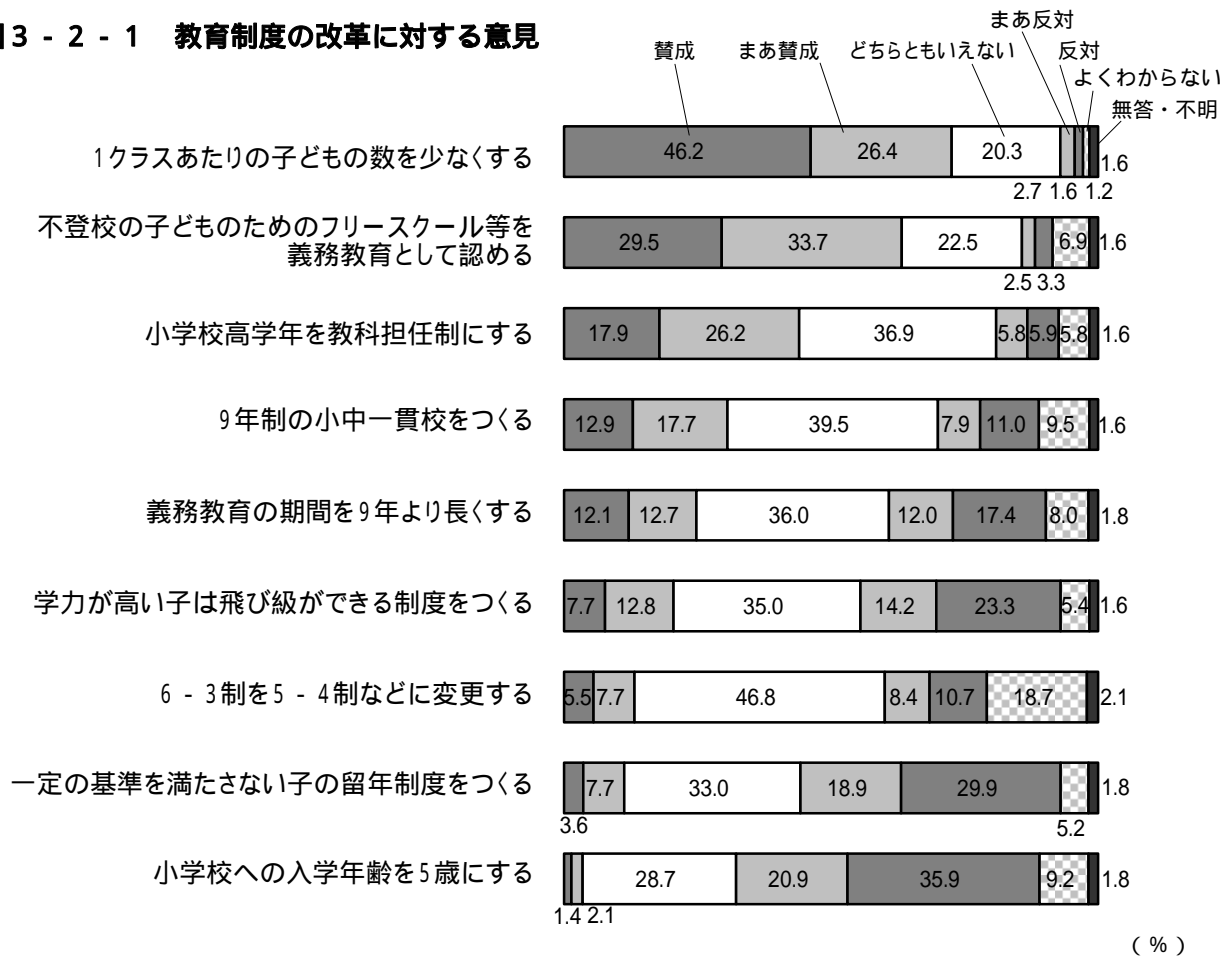


\* 「賛成」と「まあ賛成」の合計 (%)

## 2. 教育制度の改革に対する意見

つづいて、教育制度の改革について賛否をたずねた。図3-2-1は全体の傾向を示している。「賛成」(「賛成」と「まあ賛成」の合計)の回答がもっとも多いのは、「1クラスあたりの子どもの数を少なくする」(72.6%)であった。一方、もっとも少なかったのは、「小学校への入学年齢を5歳にする」(3.5%)であり、「6-3制を5-4制などに変更する」(13.2%)、「一定の基準を満たさない子の留年制度をつくる」(11.3%)も、賛成の比率が低い。

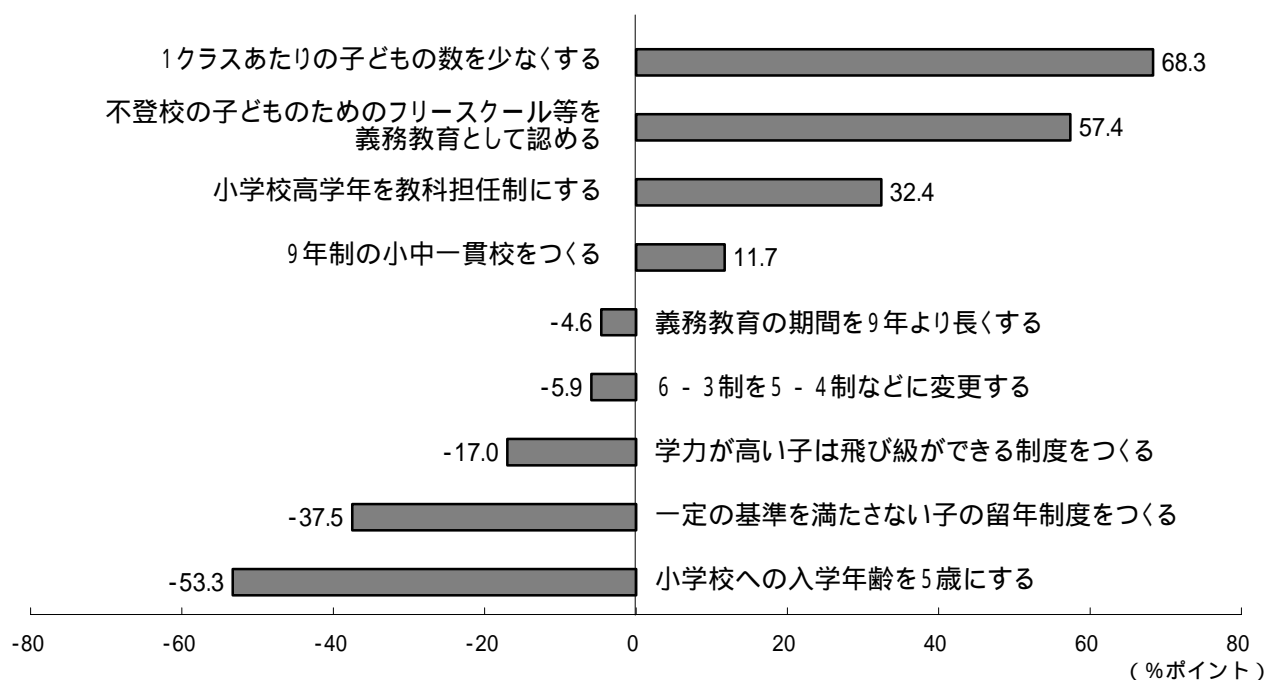
図3-2-1 教育制度の改革に対する意見





同じく、教育制度改革について、「賛成」の回答（「賛成」と「まあ賛成」の合計）から「反対」の回答（「反対」と「まあ反対」の合計）を引いて、賛成多数か反対多数かを見てみた（図3-2-2）。この結果、図に示したように、賛成多数の4項目と反対多数の5項目に大きく分かれた。賛成が反対をもっとも大きく上回ったのは、「1クラスあたりの子どもの数を少なくする」（68.3ポイント）であり、一方、「小学校への入学年齢を5歳にする」（-53.3ポイント）がもっとも反対多数であった。

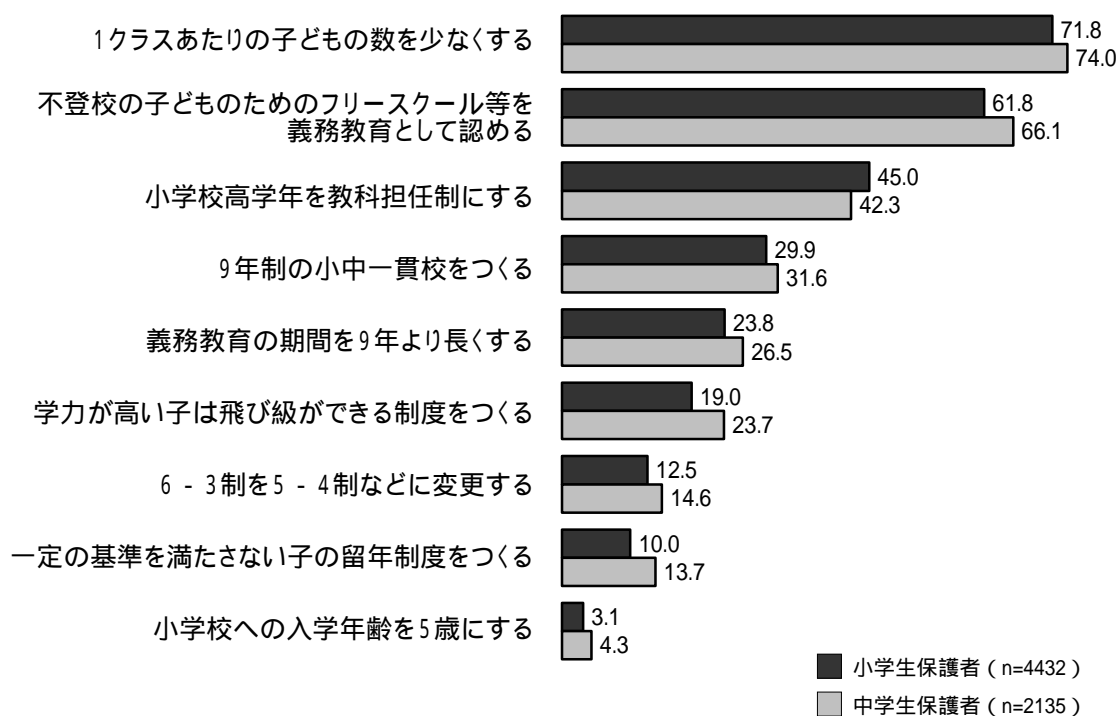
図3-2-2 教育制度改革に対する意見（「賛成」 - 「反対」のポイント）



\* 「賛成」（「賛成」と「まあ賛成」の合計）から「反対」（「反対」と「まあ反対」の合計）を引いて作図した。

つづいて、教育制度改革に対する意見を学校段階別に見てみたところ（図3-2-3）「小学校高学年を教科担任制にする」（「賛成」と「まあ賛成」の合計：小学生保護者45.0% > 中学生保護者42.3%）以外の項目については、小学生保護者よりも中学生保護者で、賛成の割合が多くなっている。

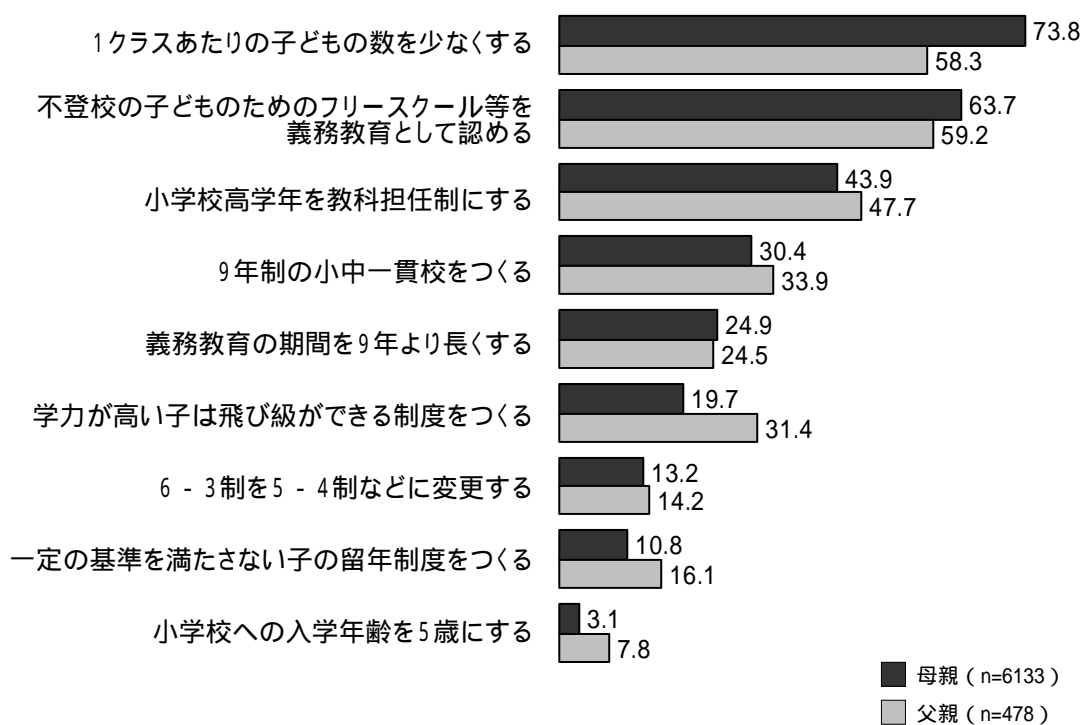
図3-2-3 教育制度改革に対する意見（学校段階別）



\* 「賛成」と「まあ賛成」の合計 (%)

さらに、教育制度改革に対する意見を父母別に見てみたところ（図3-2-4）、とくに母親に「1クラスあたりの子どもの数を少なくする」（「賛成」と「まあ賛成」の合計：母親73.8%>父親58.3%、以下同様）で賛成が多かった。一方、父親で賛成が多かったのは、「学力が高い子は飛び級ができる制度をつくる」（19.7%<31.4%）であった。

図3-2-4 教育制度改革に対する意見（父母別）

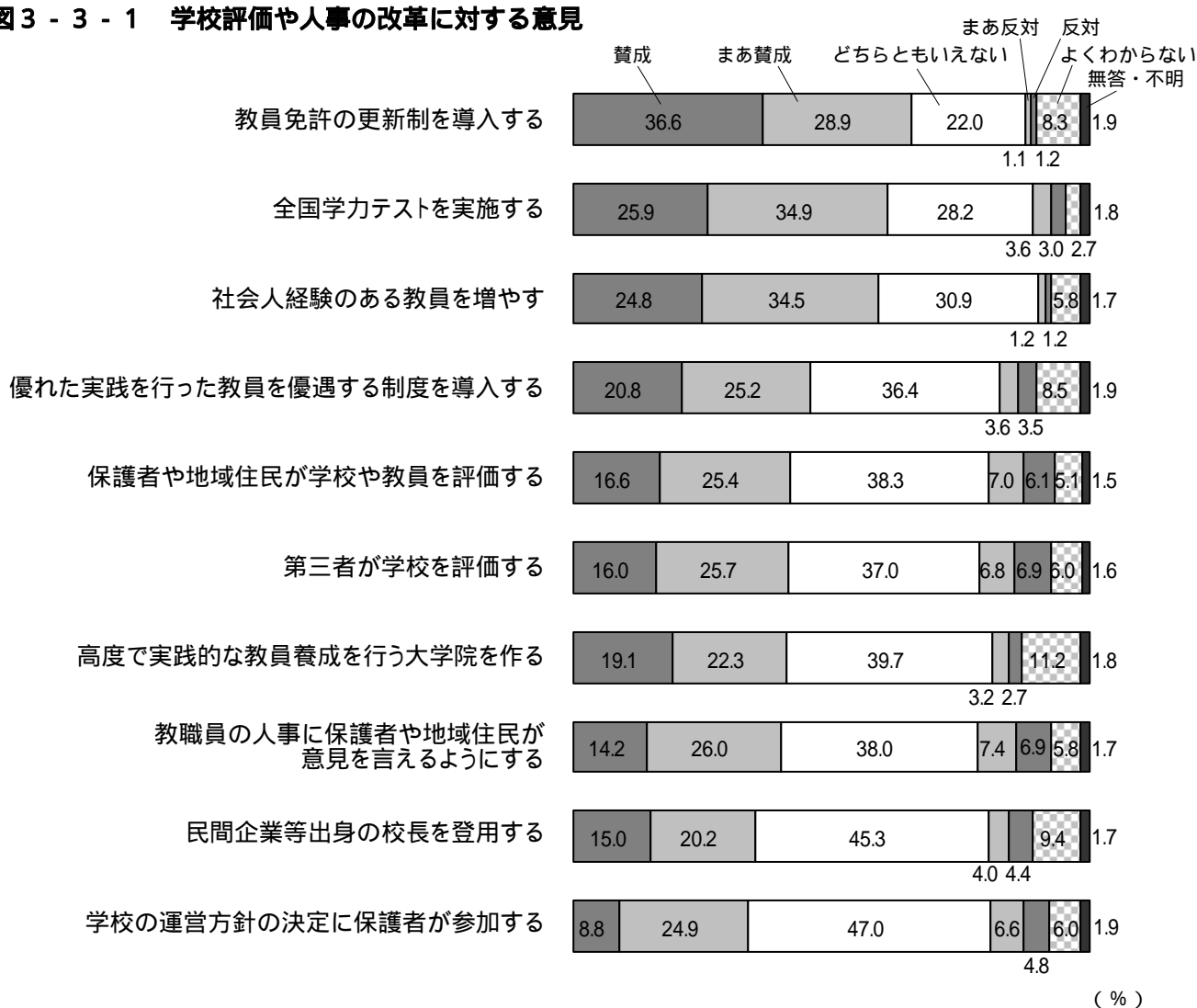


\* 「賛成」と「まあ賛成」の合計 (%)

### 3. 学校評価や人事の改革に対する意見

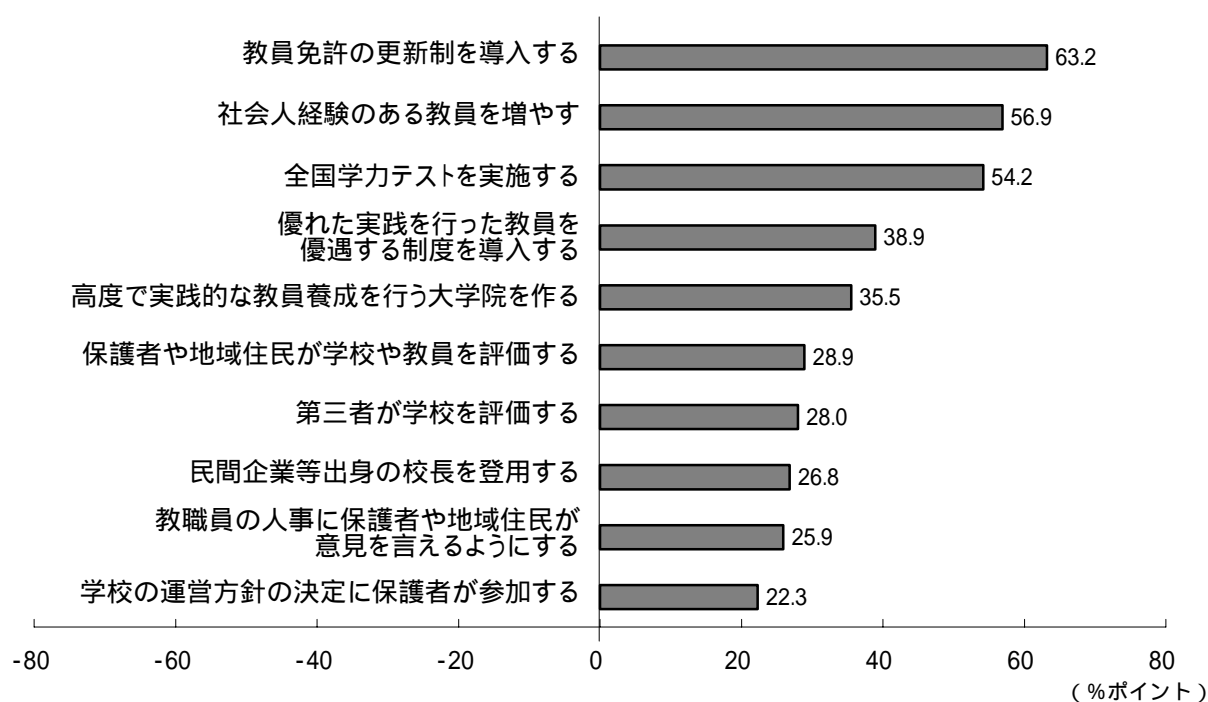
最後に、学校や教員の評価、人事や教員養成などに関する改革の賛否をたずねた。図3-3-1は全体の傾向を示している。「賛成」(「賛成」と「まあ賛成」の合計)の回答がもっとも多いのは、「教員免許の更新制を導入する」(65.5%)であった。つづいて、「全国学力テストを実施する」(60.8%)、「社会人経験のある教員を増やす」(59.3%)となっており、この3項目については、5割を越えている。一方、割合が低かったのは、「学校の運営方針の決定に保護者が参加する」(33.7%)や「民間企業等出身の校長を登用する」(35.2%)であるが、これらについては「どちらともいえない」の割合が4割以上となっている。

図3-3-1 学校評価や人事の改革に対する意見



つづいて、学校評価や人事などの改革に対して、「賛成」の回答（「賛成」と「まあ賛成」の合計）から「反対」の回答（「反対」と「まあ反対」の合計）を引いて、賛成多数か反対多数かを見てみた（図3-3-2）。この結果、すべての項目において、賛成が反対を上回っていることがわかる。そのなかでも、とくに賛成の比率が高かったのは、「教員免許の更新制を導入する」（63.2ポイント）であった。一方、少なかった項目としては、「教職員の人事に保護者や地域住民が意見を言えるようにする」（25.9ポイント）、「学校の運営方針の決定に保護者が参加する」（22.3ポイント）などがある。

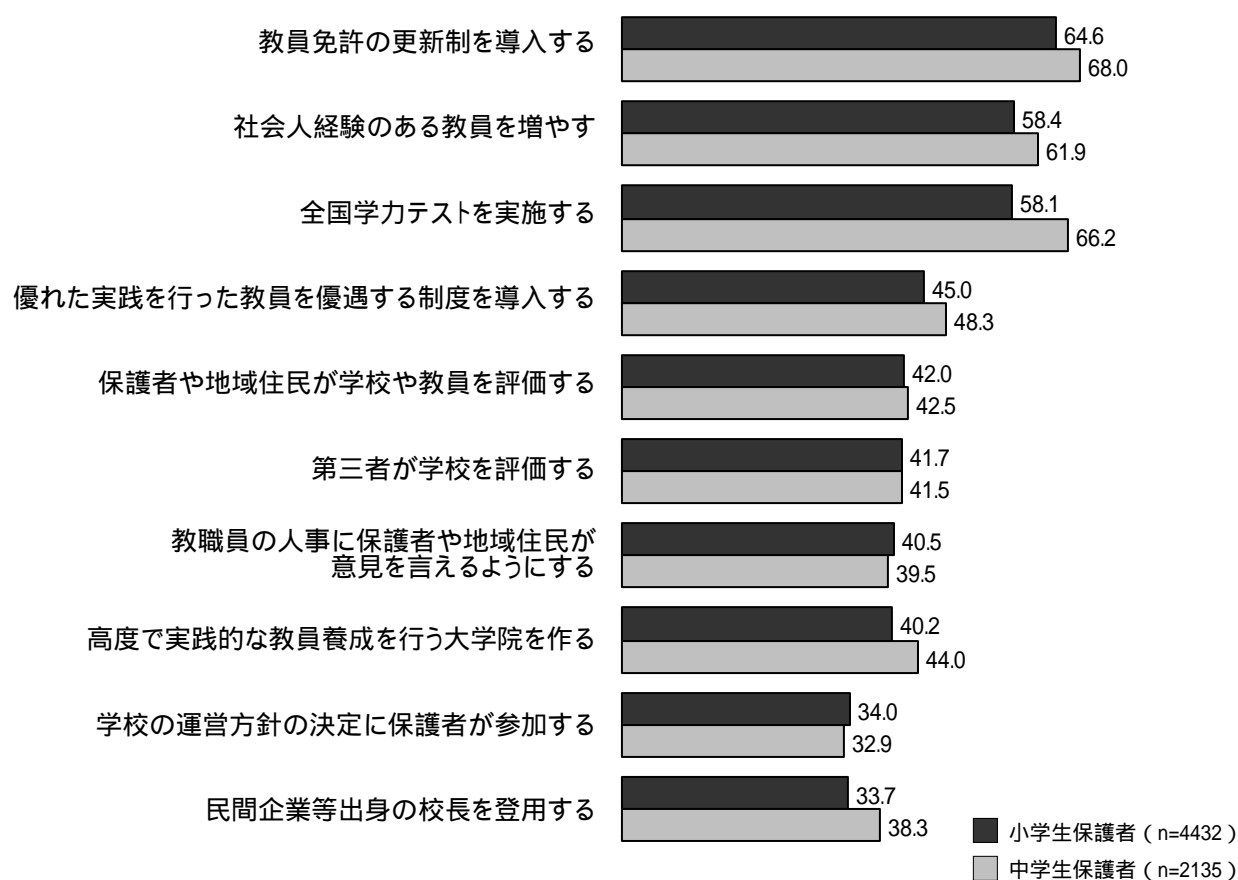
図3-3-2 学校評価や人事の改革に対する意見（「賛成」 - 「反対」のポイント）



\* 「賛成」（「賛成」と「まあ賛成」の合計）から「反対」（「反対」と「まあ反対」の合計）を引いて作図した。

次に、学校評価や人事などについての改革に対する意見を、学校段階別に見てみた(図3-3-3)。小学生保護者のほうに賛成(「賛成」と「まあ賛成」の合計)が多かったものは、「第三者が学校を評価する」「教職員の人事に保護者や地域住民が意見を言えるようにする」「学校の運営方針の決定に保護者が参加する」の3項目のみであり、その差も小さかった。それ以外については、小学生保護者よりも中学生保護者のほうが、「賛成」と回答する者が多かった。もっとも差が大きかったのは、「全国学力テストを実施する」(小学生保護者 58.1% < 中学生保護者 66.2%)であった。

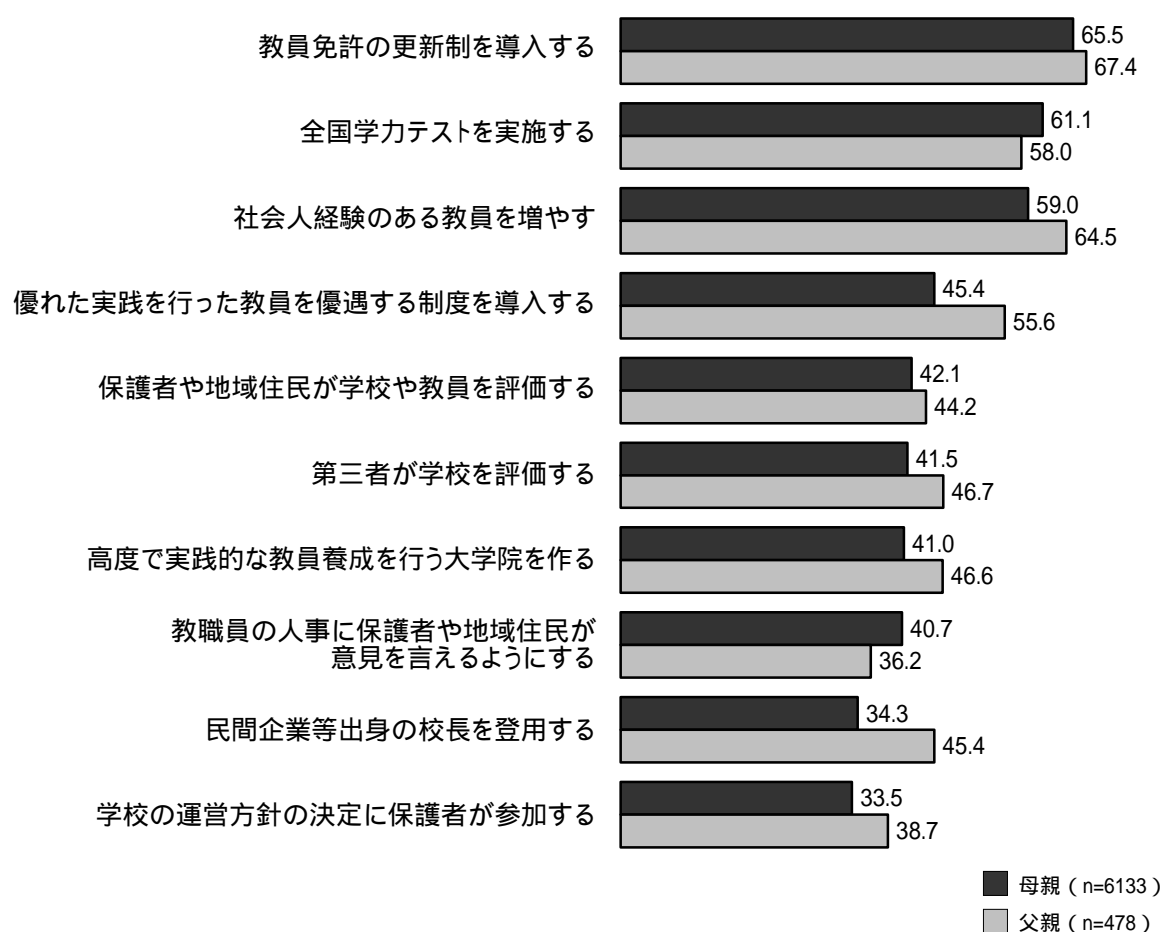
図3-3-3 学校評価や人事の改革に対する意見(学校段階別)



\* 「賛成」と「まあ賛成」の合計(%)

最後に、学校評価や人事などについての改革に対する意見を、父母別に見てみよう(図3-3-4)。母親に「賛成」「賛成」と「まあ賛成」の合計)が多かったのは、「全国学力テストを実施する」(「賛成」と「まあ賛成」の合計：母親 61.1% > 父親 58.0%、以下同様)、「教職員の人事に保護者や地域住民が意見を言えるようにする」(40.7% > 36.2%) の2項目であった。それ以外は、母親よりも父親の賛成比率が高くなっている。その差がとくに大きいものは、「優れた実践を行った教員を優遇する制度を導入する」(45.4% < 55.6%)、「民間企業等出身の校長を登用する」(34.3% < 45.4%) であった。

図3-3-4 学校評価や人事の改革に対する意見(父母別)



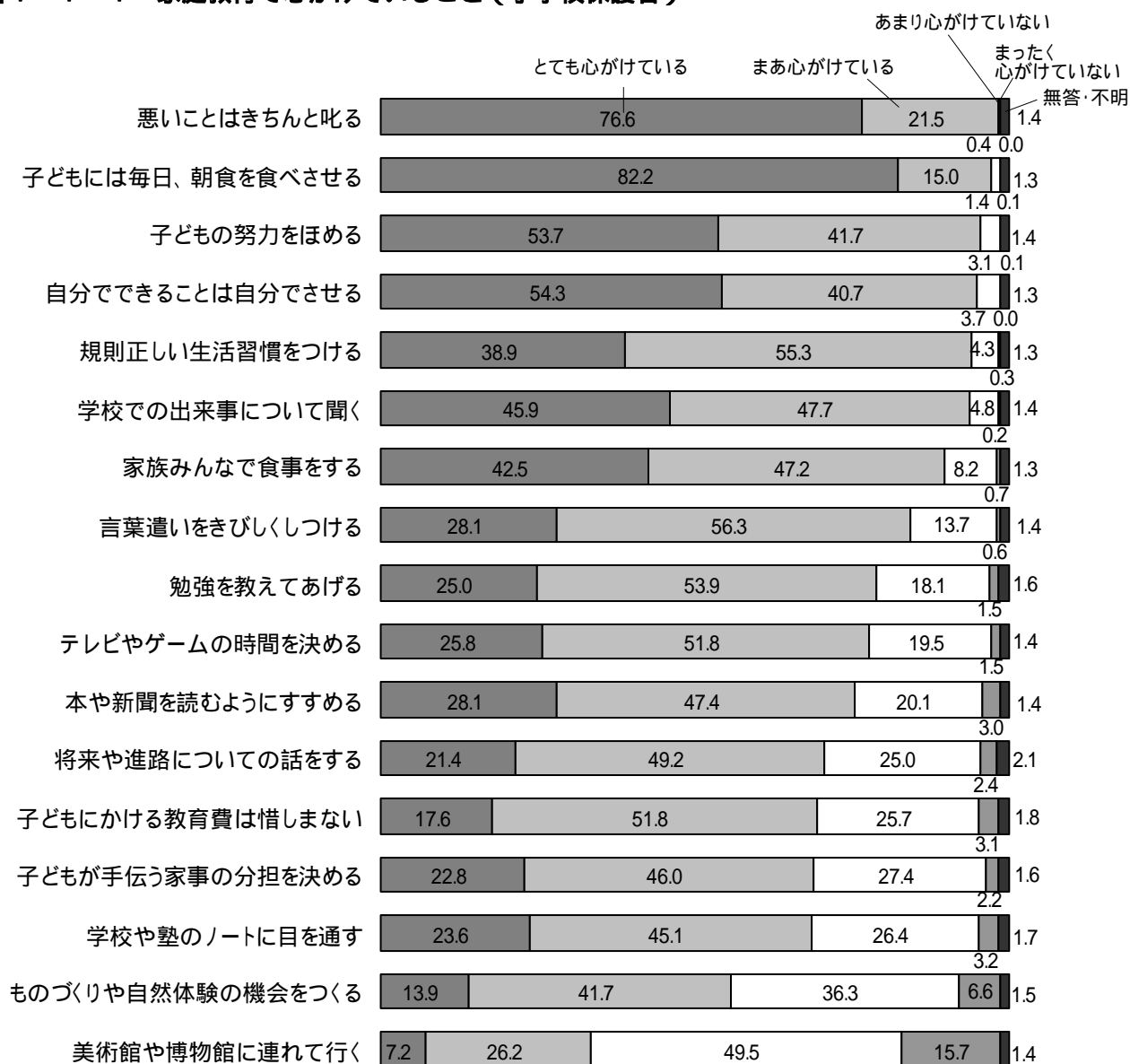
\* 「賛成」と「まあ賛成」の合計 (%)

## 4章 家庭教育や生活の様子

保護者調査では最後に、家庭における子どものかかわりのなかで、**図4-1-1**に示すような項目をどれくらい心がけているかたずねた。

まず、小学生保護者の回答結果であるが、「心がけている」「とても心がけている」と「まあ心がけている」の合計という回答は、「美術館や博物館に連れて行く」(33.4%)以外は、すべて過半数を超えている。「とても心がけている」割合を見ると、「子どもには毎日、朝食を食べさせる」(82.2%)がもっとも高く、「悪いことはきちんと叱る」(76.6%)がそれにつづいている。

**図4-1-1 家庭教育で心がけていること（小学校保護者）**

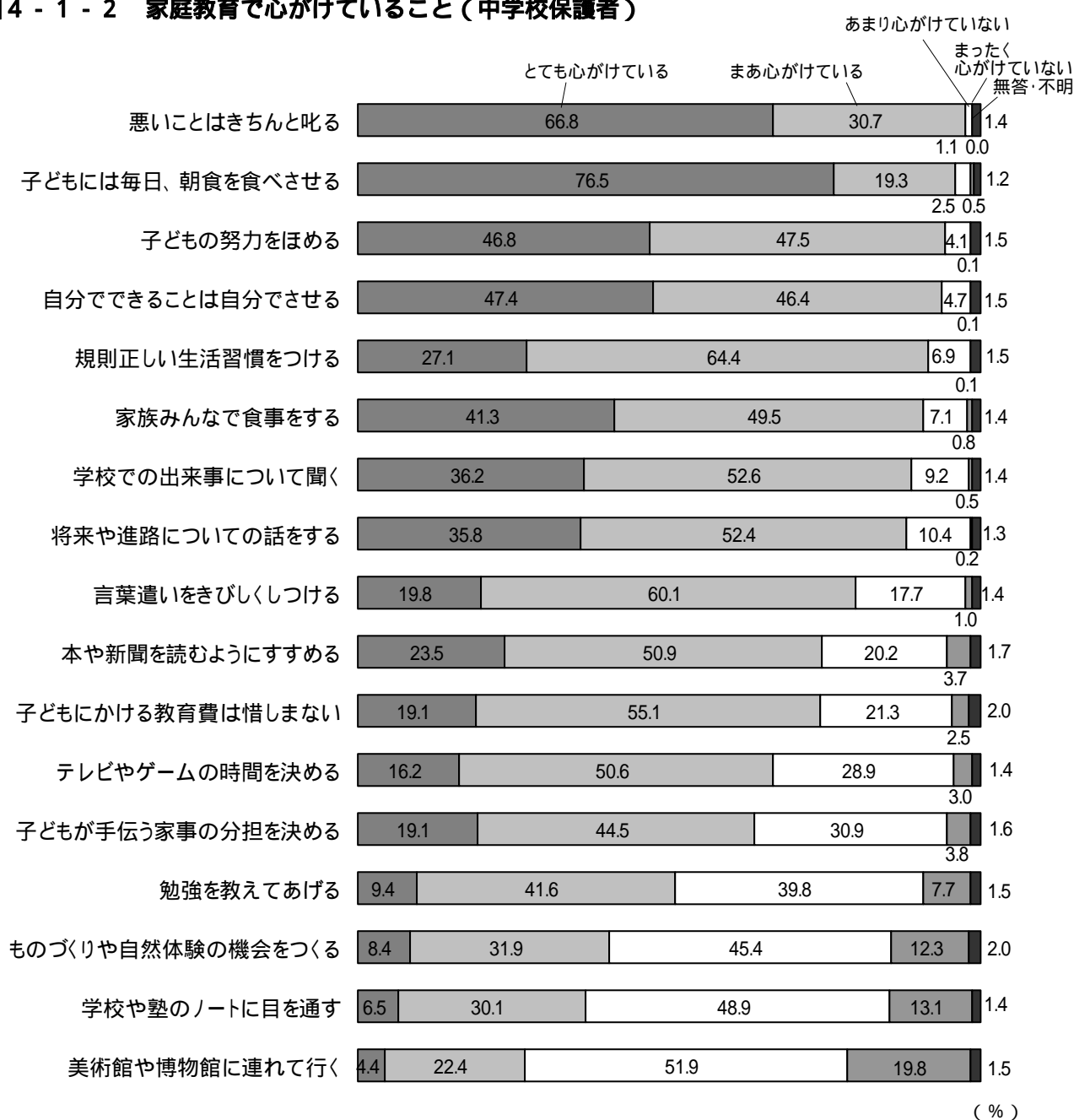


(%)



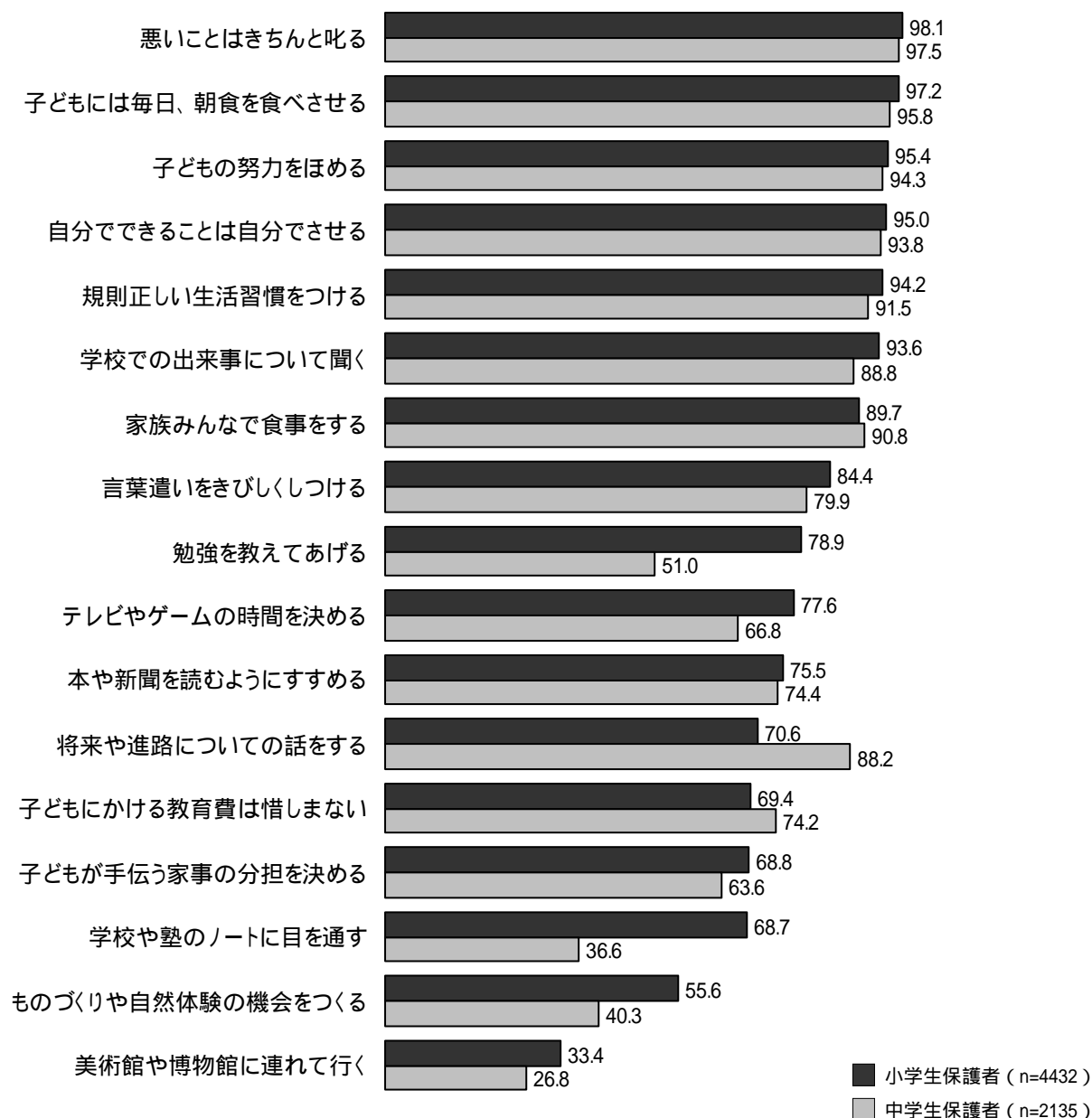
次に、家庭での子どもとのかかわりのなかで心がけていることについて、中学生の保護者の結果を確認しよう(図4-1-2)。「心がけている」(「とても心がけている」と「まあ心がけている」の合計)と答えた割合は、「ものづくりや自然体験の機会をつくる」(40.3%)、「学校や塾のノートに目を通す」(36.6%)、「美術館や博物館に連れて行く」(26.8%)以外は、過半数を超えている。「とても心がけている」割合を見ると、「子どもには毎日、朝食を食べさせる」(76.5%)でもっとも高く、「悪いことはきちんと叱る」(66.8%)がそれにつづいている。これは小学生と同じ傾向であるが、心がけている割合は、小学生に比べて低くなっている。

図4-1-2 家庭教育で心がけていること(中学校保護者)



家庭での子どもとのかかわりのなかで心がけていることを学校段階別に見たところ(図4-1-3)、中学生保護者に多かったのは、「家族みんなで食事をする」「とても心がけている」と「まあ心がけている」の合計：小学生保護者 89.7% < 中学生保護者 90.8%、以下同様)、「将来や進路についての話をする」(70.6% < 88.2%)、「子どもにかかる教育費は惜しまない」(69.4% < 74.2%)の3項目のみであった。小学生保護者のほうが心がけていることが多く、とくに差が大きい項目は、「勉強を教えてあげる」(78.9% > 51.0%)、「学校や塾のノートに目を通す」(68.7% > 36.6%)、「ものづくりや自然体験の機会をつくる」(55.6% > 40.3%)などである。

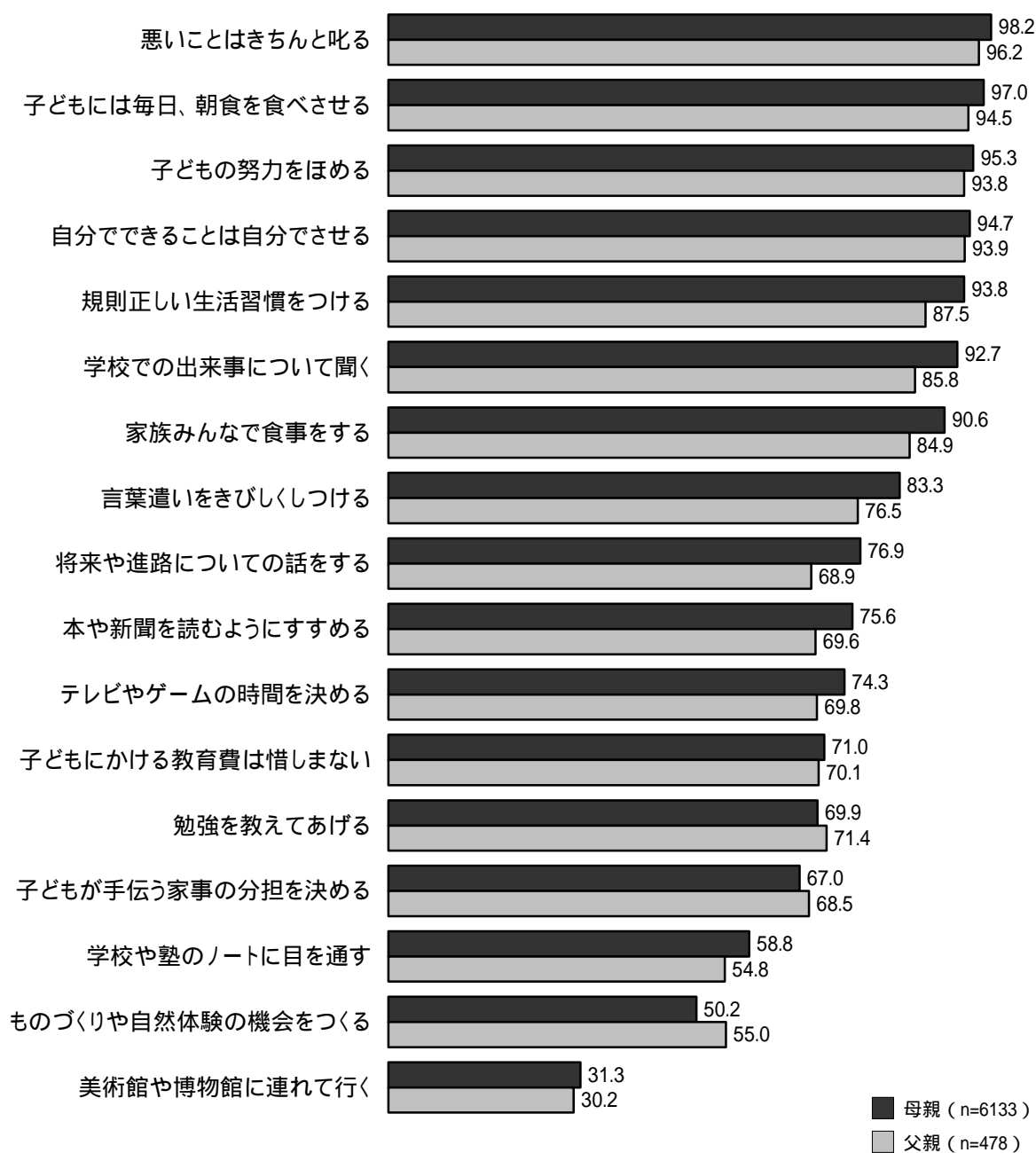
図4-1-3 家庭教育で心がけていること(学校段階別)



\* 「とても心がけている」と「まあ心がけている」の合計(%)

最後に、家庭での子どもとのかかわりのなかで心がけていることを、父母別に見てみよう。図4-1-4に示されたように、父親で多かったのは、「勉強を教える」「とても心がけている」と「まあ心がけている」の合計：母親 69.9% < 父親 71.4%、以下同様）、「子どもが手伝う家事の分担を決める」(67.0% < 68.5%)、「ものづくりや自然体験の機会をつくる」(50.2% < 55.0%)の3項目のみであった。その他の項目については、父親よりも母親のほうが、心がけている割合が高かった。

図4-1-4 家庭教育で心がけていること（父母別）



\* 「とても心がけている」と「まあ心がけている」の合計 (%)